

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和6年9月11日

【中間会計期間】 2024年度中(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

【会社名】 コーペラティブ・ラボバンク・ウー・アー
(COÖPERATIEVE RABOBANK U.A.)

【代表者の役職氏名】 長期資金調達・資本部長(アジア太平洋)
(Head of Long Term Funding and Capital, APAC)
ヘル・ブルス
(Ger Buls)

【本店の所在の場所】 オランダ国 3521 CB ユトレヒト市クローセラーン18
(Croeselaan 18 3521 CB Utrecht, the Netherlands)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 梅 津 立

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業

【電話番号】 03(6775)1000

【事務連絡者氏名】 弁護士 中村 慎二 / 伊藤 雄太 / 田中 奈央 / 高橋 慶伍

【連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業

【電話番号】 03(6775)1000

【縦覧に供する場所】 該当事項なし

第一部【企業情報】

- (注) 1 本書において、別段の記載がある場合を除き、以下の用語は下記の意味を有する。
「当社」、「当行」、「ラボバンク」または「ラボバンク・ネーデルランド」
：文脈上、別意を指す場合を除き、コーペラティブ・ラボバンク・ウー・アー
「ラボバンク・グループ」
：(i)コーペラティブ・ラボバンク・ウー・アー（支店、駐在員事務所および代理店を含む。）（以下「ラボバンク」という。）、ならびにオランダおよび世界各地の(ii)ラボバンクの子会社、および(iii)ラボバンクが支配的持分を有するその他の事業体。
- (注) 2 別段の記載がある場合を除き、本書に記載の「ユーロ」はその時々欧州経済通貨同盟に参加している欧州連合の加盟国の単一通貨としてのユーロを指す。本書において便宜上記載されている日本円への換算は、別段の記載がない限り、1ユーロ=158.88円の換算率(令和6年8月6日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売相場と買相場の仲値)によって換算されている。
- (注) 3 ラボバンクの決算期は毎年12月31日をもって終了する1年間である。本書では、2023年12月31日に終了した会計年度を「2023年度」といい、他の会計年度についてもこれに準ずる。
- (注) 4 本書中の表で計数が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しないことがある。

第1【本国における法制等の概要】

2024年1月1日から2024年6月30日までの6ヶ月間(以下「当上半期」という。)中、2024年5月31日に提出した有価証券報告書(以下「有価証券報告書」という。)に記載した内容から重要な変更はなかった。

第2【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

主要データ (単位：百万ユーロ)	上半期			通期	
	2024年	2023年	2022年	2023年	2022年
主要財務データ⁸					
普通株等Tier 1比率	16.3%	16.7%	15.1%	17.1%	16.0%
総自己資本比率（BIS比率） ¹	20.5%	21.5%	19.9%	21.7%	21.1%
レバレッジ比率 ²	7.1%	6.8%	6.2%	7.1%	6.6%
リスク加重資産	262,852	242,274	251,455	242,763	240,376
収益に対する費用の比率（賦課金を含む） ³	50.7%	51.3%	66.8%	55.9%	65.4%
基礎的な収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	50.4%	52.1%	62.0%	57.4%	61.4%
自己資本利益率	11.1%	10.7%	5.7%	9.1%	5.4%
収益	8,138	7,682	5,659	15,405	11,800
営業費用	4,074	3,615	3,344	8,057	7,049
金融資産に係る減損費用	279	339	42	727	344
当期純利益	2,818	2,528	1,276	4,377	2,403
総資産	621,641	630,203	666,844	613,796	628,513
民間セクター向け貸付ポートフォリオ	443,125	433,058	432,551	434,007	432,122
顧客からの預金	401,627	395,368	385,111	391,380	396,472
流動性カバレッジ比率（12ヶ月平均） ⁷	167%	166%	178%	161%	174%
預貸率（12ヶ月平均） ⁴	1.11	1.09	1.10	1.10	1.10
不良債権	9,497	9,654	8,323	8,997	8,636
主要非財務データ⁸					
オンライン・サービスを積極利用しているオランダの民間顧客（%）	70.5%	68.7%	67.6%	69.8%	68.1%
オンライン・サービスを積極利用しているオランダの法人顧客（%）	84.4%	83.0%	82.7%	83.8%	82.9%
ネット・バンキングの使用率 ⁵	99.7%	99.6%	99.8%	99.6%	99.8%
モバイル・バンキングの使用率 ⁵	99.8%	99.6%	99.8%	99.6%	99.8%
iDEALの使用率 ⁵	99.9%	99.9%	99.9%	99.7%	99.9%
持続可能な融資総額	36,058	32,794	31,023	34,227	31,418
レップトラック・パルス・スコア ⁶	69.5	68.5	70.2	69.2	69.2
加盟者のエンゲージメント・スコア	48%	42%	43%	44%	42%
コミュニティー・ファンドおよび寄付	11.9	8.7	5.7	40.1	30.4
従業員エンゲージメント・スコア	87	87	85	88	86

多様性：オランダ国内の従業員の女性比率（％）	50%	50%	49%	50%	50%
オランダ国内の長期欠勤率	4.3%	4.3%	4.4%	4.3%	4.4%
格付					
スタンダード・アンド・プアーズ	A+	A+	A+	A+	A+
ムーディーズ	Aa2	Aa2	Aa2	Aa2	Aa2
フィッチ	A+	A+	A+	A+	A+
DBRS	AA 低				
サステナビリティESGリスク格付 (多角経営型銀行部門)	13.4	10.2	10.5	13.7	10.2

- 1 総自己資本比率（BIS比率）は、適格資本をリスク加重資産によって除することにより算出される。
- 2 レバレッジ比率は、Tier 1資本をCRR/CRD IVに規定の定義に基づくバランスシート・ポジションおよびオフ・バランスシート負債によって除することにより算出される。
- 3 収益に対する費用の比率（賦課金を含む）は、営業費用合計（賦課金を含む）と収益合計の比率として計算される。
- 4 預貸率（12ヶ月平均）は、明確な定義に基づく貸付額および預金額をもとに、平均貸付額を平均預金額によって除することにより算出される。
- 5 12ヶ月にわたり算出された平均使用率。
- 6 敬意、感心、総合的な好感度および信頼を数値化し感情的な結びつきを測る、レピュテーション・インスティテュートが測定および決定する評判。レプトラック・パルス・スコアは12ヶ月間の平均値に基づくものである。
- 7 流動性カバレッジ比率の比較数値は、ピラー3（第3の柱）報告書に合わせ、12ヶ月間の平均値に調整されている。
- 8 ラボバンクは、ラボバンクの使用する財務指標が、代替的業績指標に係るESMAガイドラインにいうところの代替的業績指標に該当すると考えている。当該財務指標は、IFRSに従って計算されておらず、また監査も受けていない。そのため当該指標は、ラボバンクの業績を示す指標である「営業活動による利益」や「利益」に代わる指標としてみなされるべきではない。一方で、当該財務指標は投資家により一般的に使用されているものであり、それ故に開示内容として有意義なものであるとラボバンクは考えている。公表される当該財務指標は、その計算方法の違いから、他社の発表する同様の項目名の指標と比較できるものではない可能性がある。詳細については、ラボバンクのウェブサイト（<https://media.rabobank.com/m/550237552ea84f9b/original/Methodology-Definitions-of-Interim-Figures-2024.pdf>）を参照のこと。

2【事業の内容】

本書に記載の内容以外に、当上半期において当社の事業の内容に重要な変更はなかった。

3【関係会社の状況】

本書に記載の内容以外に、当上半期において当社の関係会社の状況に重要な変更はなかった。

4【従業員の状況】

2024年6月30日現在、当社の常勤に相当する従業員の数49,878名である。セグメント別の従業員数については、「第3 3『経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析』」の「(1)業績等の概要」を参照のこと。

第3【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当上半期中、経営方針および経営環境について重要な変更はなかった。対処すべき課題については、第6 1「中間財務書類」の中間財務情報に対する注記「法的手続および仲裁手続」を参照のこと。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書の記載事項に重要な変更はなかった。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績等の概要

ラボバンクの経営委員会議長による序文

不安定な世界における安定因子

素晴らしいスポーツの夏の幕開けと同時に、ラボバンクはスポーツに勤しむオランダの10~20歳の若者向けに特別なキャンペーンを開始した。当行は、登録されているスポーツ・クラブへの新規入会または当該クラブにおける会員資格の継続を支援するため、若者向けに1回限りの寄付金として(ラボバンク125周年にかけた)125ユーロを支給している。ラボバンクは、クラブおよび協会の結束力と、スポーツのもたらす健康および社会的利益の両方を信じている。だからこそ、当行に口座を有する対象年齢の若者であれば誰でも、このラボからのスポーツ・ギフトに申し込むことができるのである。

これは、当行が利益の一部を社会に再投資し、当行の加盟者ならびにオランダに数多く存在するクラブおよび協会を支援する上での一つの方法であり、社会に焦点を当てる協同組合銀行としての当行のアイデンティティに見事に合致する。若者から寄せられる多くの声が、このキャンペーンの大成功を物語っている。心沸き立つ夏の始まりは、同時に、本書において詳述する当年度上半期の良い締めくくりにもなった。

銀行として、当行は満足感とともに2024年度の最初の6ヶ月間を振り返ることができる。当行の堅調な業績は、継続している好ましい金利環境に支えられた堅固な営業成績によるものである。2023年度同期の純利益が2,528百万ユーロであったのに対し、当年度上半期は2,818百万ユーロの純利益を計上した。好業績によって、協同組合としてのラボバンクもより大きく社会に貢献することができるようになる。

組織内の至る所で事業再構築を行いながら達成した業績であるだけに、私（経営委員会議長であるステファーン・デクラーネ）は、このような業績の実現に向け共に取り組んできた全ての同僚たちを誇りに思う。18ヶ月前にラボバンクの一員となってまもなく、私は当行をこれまで以上に良くすること、ならびにどのような点をより簡素化および効率化できるかを特定するために当行の構造およびプロセスを再検証することを目標として掲げた。

当行の全ての活動の中心に顧客がいる。だからこそ当行は、あらゆることをこれまで以上に良くし、当行の顧客サービスをより迅速かつ簡潔にするためにはどうすべきか、自問してきた。答えは主に、より注意深く耳を傾けることと、「顧客の当行における体験はどのようなものか」「顧客が当行に求めるものは何か」「顧客はどのような課題に直面するのか」を問うことから得られる。客先への訪問はいつも我々に新たな見識をもたらしてくれるため、この数ヶ月間、多くの同僚たちが実際に足を運び、顧客を手助けし、その声を聴く取組みを強化してきた。こうした活動は全て、当行が顧客の歩む道を継続的に改善し、より良いサービスを提供するために役立つものである。また当行をこれまで以上に良くするという当行の目標にも直結する。

当行は、至る所で不安定さの目立つ世界を背景としながら、当該目標を追求している。この数年間、戦争、地政学的緊張および社会的格差の広がりによって、当行が銀行業を営む環境は大きく様変わりしてきた。当行は必要に応じてその変化に対応してきた。同時に、新たな経営委員会委員であるカルロ・ファン・ケメナーデの指導のもと、この数ヶ月間はオランダ国内のリテール事業の再編にも着手してきた。カルロは、ベンダー向けリース事業を営む当行の完全子会社であるDLLに30年間勤務し、最終的にCEOを務めた上で、ラボバンクに移籍してきた。同氏の持つ顧客対応実績およびエネルギーが、ラボバンクのオランダ国内事業の再構築を率いる人物として、同氏を最適任者たらしめる。

当行は今春、DLLのCEOをカルロから引き継いだララ・ヨカリーニを経営委員会委員に任命することで、経営委員会をさらに強化した。ララは4月まで、ラボバンクのオランダ国外におけるルーラルおよび食品・農業部門の融資活動の責任者を務めていた。同氏が当行の経営委員会委員に任命されたことにより、当行の3つの事業ライン（オランダ国内におけるリテール事業、国際的な食品・農業事業およびDLL）が、経営委員会において、それぞれのリーダーによって全て代表されることになった。

サステナビリティは、当行の全ての活動において引続き代表的な役割を果たしている。かねてより当行は、特にホールセール・アンド・リテール部門において、全世界におけるエネルギーおよび食料システムに係る移行に焦点を当ててきており、今後もこれを継続する。多くのネットワークに参加する中で、ラボバンクはこれらのトピックについて差別化をはかることを望み、そして実際に差別化をはかる力を有している。これもまた、ラボバンクが不安定な世界において安定性に貢献することのできる一つの方法である。

当行は、当行のミッションである「Growing a Better World Together（一体となってより良い世界を作ること）」に引続き尽力していく。当該ミッションは、裁量を与えられた従業員を擁し、顧客を重視する、堅実な銀行であり、かつ意義ある協同組合であること、という4つの強固な柱によって支えられている。今の時代ならではの試練が連続する中で、当行がこの4つの側面全てにおいて高い評価を得続けていることを私は誇りに思う。「彼ら」よりも「私たち」、「彼らの」よりも「私たちの」、そして「単独」よりも「共同」を優先しなければならない時代である。ラボバンクは「一体感」を重んじる銀行である。「私たちの銀行」として、世界における当行の存在感が増すであろう当年度下半期に、私は期待を寄せている。

[次へ](#)

財務業績

財務業績

2024年度上半期もラボバンクは堅調な財務業績を維持し、前年度同期の純利益が2,528百万ユーロであったのに対して、当期の純利益は2,818百万ユーロとなった。金融資産に係る減損費用は279百万ユーロとなり、前年度同期に比べ減少した。



ラボバンクの財務成績

主に事業が成長したことおよび当行の純受取利息に恩恵をもたらす金利環境の影響が継続していることに起因し、収益合計は6%増加した。国内リテール・バンキング (DRB) 業務における預金へのマージンは前年度と同水準であった。当行の新たな貸付業務は、広がりを見せる競争環境の影響を引続き受けており、その結果として当行の住宅ローン・ポートフォリオの平均マージンはわずかに減少した。W&Rにおいては、エネルギーに係る移行に貢献する顧客に対してより多くの融資を提供するようになり、当行のリース子会社であるDLLにおいては、ポートフォリオの増加が見られた。これらはいずれも純受取利息の増加につながった。加えて、金利の上昇は持分利益の増加にもつながっている。オランダのBPDにおいてはマージンの回復を受けて取引件数が増加したが、BPD全体の業績は、不確実性と非良心的な価格に起因してドイツにおける住宅市場が依然として停滞していることの影響を受けた。

営業費用は、労働協約 (CLA) の影響ならびに主に当行のFECおよびIT部門において顕在化した平均従業員数の増加を受け、13%増加した。当年度の残りの期間については、インフレの影響、人件費ならびにデジタル化およびデータ機能への継続投資により、費用は高止まりするものと見込まれる。単一破綻処理基金 (SRF) に対する拠出金が不要となったため、賦課金は278百万ユーロ減少した。

金融資産に係る減損費用は、279百万ユーロとなった（2023年度：339百万ユーロ）。これは主に、オランダ経済が引続き比較的好調であることを受けて当行のDRB部門において取崩しを行った結果である。貸倒引当金繰入は、W&Rにおいてはより平時に近い水準に戻ったが、DLLにおいては幾分上昇した。

世界的なローンの需要は依然として大きくないものの、為替の影響を調整したラボバンクの民間セクター向け貸付ポートフォリオは、2024年度上半期に約7.9十億ユーロ増加した。ラボバンクの世界規模の食品・農業ポートフォリオは4%増加し119.6十億ユーロとなった。ラボバンクはオランダの住宅ローン市場において確固たる地位を保ち、その市場シェアは18.6%となった（2023年度：19.3%）。預金の合計額は10.2十億ユーロ増加したが、これは休日手当が使用されないまま貯金されていることを一因として主に国内リテール顧客からの預金が増加したことによるものであった。

収益に対する費用の比率は、収益の増加および賦課金の減少が費用の増加を補って余りあるものであったため、51.3%から50.7%まで改善された。自己資本利益率も前向きな動きを見せ、11.1%にまで改善された。当行のCET 1比率は16.3%となった。当行のモデル戦略に係る選択および事業の動向を主因とするリスク加重資産の増加と、ラボバンク証券に対する約1十億ユーロの公開買付の双方がマイナスの影響をもたらした一方、堅調な財務成績はプラスに働いた。当行は強固な資本基盤を維持しており、保守的な流動性管理によって安定的な流動性ポジションが確保されている。その結果、ラボバンクは堅実な銀行であり続けている。

業績

(単位：百万ユーロ)	2024年 6月30日	2023年 6月30日	増減率
純受取利息	6,128	5,807	6%
純受取手数料	1,160	1,007	15%
その他利益	850	868	-2%
収益合計	8,138	7,682	6%
人件費	3,004	2,742	10%
その他一般管理費	915	704	30%
減価償却費および償却費	155	169	-8%
営業費用合計	4,074	3,615	13%
総利益	4,064	4,067	0%
金融資産に係る減損費用	279	339	-18%
賦課金	49	327	-85%
税引前営業利益	3,736	3,401	10%
法人税等	918	873	5%
当期純利益	2,818	2,528	11%

金融資産に係る減損費用（単位：ペーシスポイント）	13	16
--------------------------	----	----

比率

収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	50.7%	51.3%
基礎的な収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	50.4%	52.1%
自己資本利益率（ROE）	11.1%	10.7%

貸借対照表

(単位：十億ユーロ)	2024年 6月30日	2023年 12月31日	
資産合計	622.0	613.8	1%
民間セクター向け貸付ポートフォリオ	443.1	434.0	2%
顧客からの預金	401.6	391.4	3%
内部従業員数（常勤換算従業員）	41,376	40,467	2%
外部従業員数（常勤換算従業員）	8,502	8,665	-2%
総従業員数（常勤換算従業員）	49,878	49,132	2%

ラボバンクの財務成績に関する注記

税引前基礎的営業利益の変動		
(単位：百万ユーロ)	2024年6月30日	2023年6月30日
収益	8,138	7,682
収益に対する調整	公正価値により評価される項目	-9
		-112
基礎的収益	8,129	7,570
営業費用	4,074	3,615
費用に対する調整	事業再構築費用	25
		-5
基礎的費用	4,049	3,620
基礎的総利益	4,080	3,950
金融資産に係る減損費用	279	339
賦課金	49	327
税引前営業利益	3,736	3,401
合計調整額	16	-117
税引前基礎的営業利益	3,752	3,284

収益：6%増

純受取利息は大幅に増加

純受取利息は、6%増に相当する合計6,128百万ユーロとなった(2023年度：5,807百万ユーロ)。W&RおよびDLLにおけるポートフォリオの成長が当該増加に貢献した。高金利が続いていることも、全ての商業事業体につき投資の含み益の増加をもたらした。DRBにおける預金へのマージンは前年度と同水準であったが、これは新規住宅ローンに対するマージンが依然として競争環境の影響下にあったためである。純受取利息を平均資産残高総額で除することにより計算される年間純利息マージンは、純受取利息の増加と平均資産残高の減少が組み合わさったことにより、2023年6月30日時点の1.56%に対して2024年6月30日時点では1.88%に増加した。

純受取手数料は増加

当行の純受取手数料は、1,160百万ユーロまで増加した（2023年度：1,007百万ユーロ）。DRBにおける純受取手数料は、手数料収入を発生させる全ての活動（すなわち支払い、保険および投資商品）において2023年度上半期と比較し増加が見られたことで、59百万ユーロ改善された。ホールセール・アンド・ルーラル（W&R）においては、主にキャピタル・マーケットにおける、ローン手数料および社債のシンジケーション手数料によって手数料収入が増加したことにより、純受取手数料は増加し245百万ユーロとなった（2023年度：158百万ユーロ）。

その他利益は減少

その他利益はわずかに減少して850百万ユーロとなった（2023年度：868百万ユーロ）。W&Rにおけるその他利益は、評価益が限定的であったことおよびラボ・インベストメントにおける撤退に起因して減少した。リース終了に係る収益が減少したことに起因し、リース部門においてもその他利益のわずかな減少が見られた。加えて、公正価値により評価される項目に係る損益¹は減少し、メカニクス・バンクに対する当行の持分についての評価益は2023年度上半期と比較し46百万ユーロ増加した。オランダのBPDにおいてはマージンの回復を受けて取引件数を増加させることができた一方、BPD全体の業績は、不確実性と非良心的な価格に起因してドイツにおける住宅市場が依然として停滞していることの影響を受けた。

- 1 公正価値により評価される項目に係る損益には、当行のヘッジ会計に係る損益および当行のマーケット部門のXVA収益が含まれる。

営業費用：13%増

人件費は増加

効率性に関する施策は引き続き実施されているものの、全体としての人件費は、ラボバンクの従業員向けの新たなCLAによる給与の増加を主因として、10%増加して3,004百万ユーロとなった（2023年度：2,742百万ユーロ）。2024年度上半期中、ラボバンクの総従業員数（外部採用従業員を含む。）は常勤換算従業員にして49,878人に増加した（2023年度：49,132人）。FECおよびITのための従業員の増員によって、DRBにおける合計常勤換算従業員数は増加した。事業の拡大およびコンプライアンス関連の活動を支えるため、リース部門における従業員数は常勤換算従業員にして前年度比105人増となり、W&Rにおける従業員数も常勤換算従業員にして前年度比78人増となった。

その他一般管理費は増加

その他一般管理費の合計は、915百万ユーロまで増加した（2023年度：704百万ユーロ）。DRBにおいては、前年度と比較しFECおよびクラウドに係る費用が増加したほか、付加価値税の還付額が減少したことも当該増加に寄与した。加えて、2023年度は複数の引当金の取崩しによりその他一般管理費は引き下げられていた。W&Rにおいてその他一般管理費が増加した要因も付加価値税の還付額の減少であった。当行のリース子会社であるDLLにおけるその他一般管理費も、ITへの投資額の増加に伴い増加した。

減価償却費および償却費は減少

減価償却費および償却費は、ソフトウェアに係る減価償却費が減少しただけでなく、DRBにおける不動産ポートフォリオの動向に沿ってオフィス数が減少したことにも起因し、155百万ユーロに減少した（2023年度：169百万ユーロ）。

金融資産に係る減損費用

2024年度上半期の金融資産に係る減損費用は、前年度同期に対して60百万ユーロの減少に当たる、279百万ユーロとなった。特にインフレおよび高金利の影響に対する懸念は存在するものの、当行の貸付ポートフォリオの信用度に対する影響は現在のところわずかとなっている。しかし、当行はあらゆる不確実性を考慮し引続き注意を払っている。減損費用の減少は主に、オランダ経済が引続き比較的好調であることを受けて当行のDRB部門において取崩しを行った結果である。貸倒引当金繰入は、W&Rにおいてはより平時に近い水準に戻ったが、DLLにおいては幾分上昇した。年間で見ただけの金融資産に係る減損費用は13ベースポイントとなったが（2023年度：16ベースポイント）、これは長期平均（2014年度から2023年度）の17ベースポイントを依然として下回っている。加えて当行は、より長期にわたる範囲を網羅し、景気循環に左右されない一般的リスクコストを反映する、景気循環全体を通じた水準も注視しており、そちらは20ベースポイント前後となっている。詳細については、「リスク管理」の項を参照されたい。

賦課金は減少

賦課金は2023年度上半期よりも低い水準となり、単一破綻処理基金（SRF）に対する拠出金が不要となったことにより、49百万ユーロまで減少した（2023年度：327百万ユーロ）。SRFは10年（2015年から2024年）にわたり積み立てられてきた。2024年度下半期には預金保証スキーム（DGS）に対する拠出が予定されているが、これまでよりも大幅に少ない金額となる。

バランスシートの動向

バランスシート		
(単位：十億ユーロ)	2024年6月30日	2023年12月31日
現金および現金同等物	80.6	90.5
顧客に対する貸出金および預け金	453.6	439.3
金融資産	24.2	20.4
他行に対する貸出金および預け金	25.9	26.5
デリバティブ	21.0	22.0
その他資産	16.3	15.1
資産合計	621.6	613.8
顧客からの預金	401.6	391.4
発行済債務証券	118.7	122.5
他行からの預り金	16.0	15.8
デリバティブ	15.0	15.4
金融負債	3.4	3.3
その他負債	15.5	15.7
負債合計	570.1	564.2
自己資本	51.5	49.6
負債および自己資本合計	621.6	613.8

民間セクター向け貸付ポートフォリオは増加

当行の民間セクター向け貸付は9.1十億ユーロ増加し、2024年6月30日現在443.1十億ユーロとなっている。為替の影響を除いた場合、当該ポートフォリオは約7.9十億ユーロ増加したことになる。DRBの民間セクター向け貸付ポートフォリオ合計は271.5十億ユーロとなった（2023年度：270.6十億ユーロ）。オランダ国内においては住宅市場が回復した。当行の住宅ローン・ポートフォリオは最終的に0.5十億ユーロ増加し194.3十億ユーロとなった。当該セグメントにおいては、企業向け貸付もわずかに増加した。W&Rの貸付ポートフォリオは6.2十億ユーロ増加し、DLLにおける民間セクター向け貸付は2.0十億ユーロ増加した。

貸付ポートフォリオ

(単位：十億ユーロ)	2024年6月30日	2023年12月31日
顧客に対する貸付および預け金の合計	453.6	439.3
うち：政府系顧客に対する貸付および預け金	1.8	1.4
リバース・レポ取引および証券貸借	19.9	15.3
金利ヘッジ（ヘッジ会計）	-11.2	-11.4
民間セクター向け貸付ポートフォリオ	443.1	434.0
国内リテール・バンキング	271.5	270.6
ホールセール・アンド・ルーラル	127.7	121.5
リース	43.8	41.8
不動産開発	0.1	0.1
その他	0.0	0.0

2024年6月30日現在の民間セクター向け貸付ポートフォリオの地理的内訳（債務者の所在国に基づく。）は、オランダが66%、北アメリカが12%、ヨーロッパ（オランダ以外）が10%、オーストラリアおよびニュージーランドが7%、南アメリカが4%、アジアが2%であった。

セクター別貸付ポートフォリオ¹

(単位：十億ユーロ)	2024年6月30日		2023年12月31日	
民間個人顧客に対する貸付	203.5	46%	203.6	47%
商業・工業・サービス業に対する貸付	120.0	27%	115.5	27%
うち：オランダ国内の貸付	77.9		75.3	
うち：オランダ国外の貸付	42.1		40.2	
食品・農業に対する貸付	119.6	27%	114.8	26%
うち：オランダ国内の貸付	44.5		42.2	
うち：オランダ国外の貸付	75.1		72.6	
民間セクター向け貸付ポートフォリオ	443.1	100%	434.0	100%

1 当該事業体の設立国に基づく。

顧客からの預金は増加

顧客からの預金の合計は401.6十億ユーロまで増加した（2023年度：391.4十億ユーロ）。休日手当が使用されないまま貯金されていることに一部起因し、DRBにおける顧客からの預金は331.6十億ユーロまで増加した（2023年度：324.7十億ユーロ）。その他の部門における顧客からの預金は、70.0十億ユーロまで増加した（2023年度：66.8十億ユーロ）。当行の預貸率（LtD比率、12ヶ月平均）は1.11となった（2023年度：1.10）。

顧客からの預金		
(単位：十億ユーロ)	2024年6月30日	2023年12月31日
民間個人顧客	213.7	204.1
うち定期預金	23.8	22.2
うち貯蓄性預金	155.7	147.6
うち当座預金	34.2	34.3
法人顧客	125.5	127.9
うち定期預金	13.6	12.1
うち貯蓄性預金	56.5	53.7
うち当座預金	55.4	62.1
中核預金	339.2	332.0
非中核預金	62.4	59.4
顧客からの預金	401.6	391.4

自己資本

利益剰余金の増加および2024年5月に完了した公開買付によるラボバンク証書の減少を受け、当行の自己資本は51.5十億ユーロに増加した（2023年度：49.6十億ユーロ）。2024年6月30日現在、当行の自己資本のうち、76%（2023年度：73%）が利益剰余金および準備金、13%（2023年度：16%）がラボバンク証書、10%（2023年度：10%）が資本証券、そして1%（2023年度：1%）がその他非支配持分により構成されている。

自己資本の変動	
(単位：百万ユーロ)	
2023年12月末時点の自己資本	49,641
当期中の純利益	2,818
その他包括利益	298
ラボバンク証書に対する支払い	-239
ラボバンク証書の償還	-1,001
その他	-21
2024年6月末時点の自己資本	51,496

発行済債券

この数年間で当行の資金調達構成がいっそう多様化したことにより、当行の資本市場への依存度は抑えられ、新規発行に対する柔軟性が高まってきている。2024年度上半期の当行の発行済債券残高（市場価格に基づく。）は129.2十億ユーロに減少した（2023年度：133.4十億ユーロ）。当行は様々な市場、償還期限、通貨および商品を利用している。資金調達の多様化に意識を向けることは、今後も優先事項であり続け、経済的考察による影響を受ける。

自己資本の動向

自己資本比率 (BIS比率)		
(単位: 百万ユーロ)	2024年6月30日	2023年12月31日
準備金および利益剰余金	38,992	36,242
予定される分配	-103	-2
ラボバンク証券	6,909	7,825
非支配持分のうち適格資本として扱われるもの	0	0
規制上の調整	-2,882	-2,449
経過措置に伴う調整	1	6
普通株等Tier 1資本	42,917	41,622
資本証券	4,972	4,975
適用除外対象証券	0	0
非支配持分	0	0
規制上の調整	-72	-100
経過措置に伴う調整	0	0
その他Tier 1資本	4,900	4,875
Tier 1資本	47,817	46,497
劣後債務のうち適格資本として扱われるもの	6,058	6,309
非支配持分	0	0
規制上の調整	-86	-100
経過措置に伴う調整	0	0
Tier 2資本	5,972	6,209
適格資本	53,789	52,706
リスク加重資産	262,852	242,763
普通株等Tier 1資本比率	16.3%	17.1%
Tier 1資本比率	18.2%	19.2%
MREL資本比率	29.0%	30.1%
総自己資本比率 (BIS比率)	20.5%	21.7%
コーポラティブ・ラボバンク・ウー・アー単体 (発行体レベル) の普通株等Tier 1資本比率	15.8%	16.7%

2024年6月30日現在、当行のCET 1比率は16.3%となった(2023年度:17.1%)。これは、当行の14%超という目標を十分に上回っている。CET 1比率の動向の主要な原動力となったのは、純利益が堅調であったことにより利益剰余金が2.4十億ユーロ増加したこと(36.0十億ユーロから38.4十億ユーロ)であった。RWAは、当行のモデル戦略に係る選択および事業の動向に起因して20.1十億ユーロ増加し(242.8十億ユーロから262.9十億ユーロ)、これがCET 1比率にマイナスに影響した。またラボバンク証券に対する公開買付もCET 1比率を0.4%ポイント減少させた。当行はレバレッジ比率(すなわち、Tier 1資本をオン・バランスの総資産およびオフ・バランスの負債で除した数値)をCRR / CRD IVに規定される定義に基づき算出している。2024年6月30日時点の当行のレバレッジ比率は7.1%(2023年度:7.1%)であり、3%の最低レバレッジ比率を十分に上回っている。MREL要件を充足するため、当行は当行の資本戦略に沿ってNPS商品を発行した。当行の総自己資本比率(BIS比率)は20.5%(2023年度:21.7%)まで減少したが、これはRWAの増加および発行済みTier 2商品の適格分の償却がCET 1資本の増加により一部相殺されたことによるものであった。ラボバンクは、20%の総自己資本比率(BIS比率)は適切であると考えている。

リスク加重資産

2024年度上半期中、RWA合計は262.9十億ユーロまで増加した(2023年度:242.8十億ユーロ)。RWAは、通常の事業成長により約7.5十億ユーロ増加した一方、為替変動がこれに1.4十億ユーロ前後のプラスの影響を及ぼし、またオペレーショナル・リスクに係るRWAも0.5十億ユーロ増加した。モデル戦略に係る選択もRWAを10.7十億ユーロ増加させた。2025年のバーゼルIV施行時のRWAの減少は限定的なものとなると当行は見込んでいる。

ラボバンクは、ラボバンクが直面するリスクの潜在的なマイナスの影響をカバーするためには資本をいくら保有することが適切かを決定するため、自己資本比率を規範的な観点(すなわち、規制上の観点)および経済的な観点の両方から評価している。いずれの観点から見ても、ラボバンクは適切に資本化されている。

規制上の自己資本

規制上の自己資本要件は、当行のリスク加重資産の8%である。当該自己資本要件は、CRRおよびCRD IVが当行に保有を義務付ける資本の最小額を意味する。当行の規制上（要求される）自己資本は、2024年6月30日時点で21.0十億ユーロ（2023年度：19.4十億ユーロ）となり、このうち87%は信用および移転リスク、11%がオペレーショナル・リスク、2%がマーケット・リスクに関係している。

事業部門別の規制上の自己資本		
(単位：十億ユーロ)	2024年6月30日	2023年12月31日
国内リテール・バンキング	6.8	6.1
ホールセール・アンド・ルーラル	8.3	7.6
リース	2.6	2.5
不動産開発	0.4	0.4
その他	2.9	2.8
ラボバンク	21.0	19.4

当行のMREL適格資本バッファ

当行は、万が一ベイル・インが発生した場合にシニア債権者および預金者を保護することを目指している。そのため、当行はベイル・イン時に当初損失を吸収する資本、劣後債務および非優先シニア債務による多くのバッファを有している。これに加え、MREL適格優先シニア債務によって構成されるバッファも利用可能となっている。

当行は法的拘束力を有する自己資本および適格債務の最低基準（MREL）に関する単一破綻処理委員会（SRB）による決定について、DNBより正式な通知を受領した。MREL要件は、欧州連合の銀行が潜在的な破綻に際して損失を吸収するための十分な自己資本および適格債務を保有することを確保するために設けられたものである。ラボバンクのMREL要件は、SRBによる現時点での決定に基づき、連結レベルで設定されている。法的拘束力を有する当行のMREL要件はRWAの28.9%（段階的に導入されているコンバインド・バッファ要件（CBR）を含む。）およびレバレッジ比率エクスポージャーの7.5%に設定されている。

劣後MRELバッファは、適格資本に、満期日までの残存期間が1年以上のTier 2資本証券（の償却済み分）および満期日までの残存期間が1年以上の非優先シニア債を加えたものとして定義されている。当該バッファは、73.1十億ユーロから76.2十億ユーロまで増加したが、これはリスク加重資産の29.0%（2023年度：30.1%）に相当する。これに加え、MREL適格優先シニア債による4.4%ポイントのバッファも利用可能な状況であった。

MREL適格資本バッファ		
(単位：十億ユーロ)	2024年6月30日	2023年12月31日
適格資本	53.8	52.7
満期日までの残存期間が1年以上のTier 2のうち償却済みのもの	2.2	1.7
満期日までの残存期間が1年以上の非優先シニア債	20.2	18.7
MREL適格資本および非優先シニア債によるバッファ	76.2	73.1
満期日までの残存期間が1年以上のMREL適格優先シニア債	11.7	13.5
合計MREL適格バッファ	87.9	86.6
リスク加重資産	262.9	242.8
MREL適格資本および非優先シニア債によるバッファ / リスク加重資産	29.0%	30.1%
合計MREL適格バッファ / リスク加重資産	33.4%	35.7%

[次へ](#)

リスク管理

当行のリスク戦略は、当行の戦略全体に欠くことのできない部分である。当行が許容することをいとわない、または回避することを望むリスクの合計レベルであるリスク選好度は、事業目標の決定を目的として設定される。当行は日々、新規および既存の顧客と取引を行い、与信を行い、金利契約やリース契約の締結、株式投資やパートナーシップへの参入を行い、またその他の顧客サービスを提供する中で、情報に基づいたリスク決定を行っている。健全なリスク管理は、顧客にサービスを提供しステークホルダーを満足させるための重要な指標を、当行の継続性を下支えするコントロールされた方法で監視することを可能にする。



当行は、当行の意識的なリスク負担姿勢に合わせた強固なリスク管理枠組みに基づき、重大リスクを管理するためのリスク活動を実施し、規制を設けている。当行は、リスク管理枠組みの有効性を継続的に評価し、最新の動向および要件に適応する。最終的に、当行のリスク管理活動は、リスク選好度の範囲内で、当行、当行の顧客およびステークホルダーの目標の実現を支援できるように設計されている。

当行のリスク戦略は、中期計画2024-2028に直結するリスク選好度につながるもので、優れた顧客重視、意義ある協同組合、堅実な銀行および従業員のエンパワメントという戦略の柱に沿っている。これらの柱はリスク選好度の大きな限度を定めており、当行はその範囲内で運営を行わなければならない。当行のリスク選好度はリスク種別ごとに規定され、当行が許容することをいとわないまたは回避することを望むリスクの合計レベルを定義している。当行の全体的なリスク・エクスポージャーの最大レベルは、対象となる活動におけるリターンと持続可能性に対する望ましいリスク特性を評価するために、事業活動において使用される。リスク選好度は主要なリスク種別ごとに分類され、定性的なリスク選好度声明および定量的なリスク選好度指標によりさらに詳細に規定されている。また事業体別のリスク選好度声明には、グループのリスク選好度がさらに詳細に規定されている。

ESGリスク

気候変動および自然変動（平均気温の上昇、異常気象および生物多様性の喪失など）の結果（物理的リスク）ならびに気候中立経済への移行に関連するリスク（移行リスク）は、当行のミッションおよび戦略において中心に位置づけられている。当行はパリ気候協定の目標に取り組み、ネット・ゼロ・バンキング・アライアンス、オランダ金融セクターの気候コミットメント、生物多様性のためのファイナンス協定および自然関連財務情報開示タスクフォースに加盟している。ラボバンクは、国連ビジネスと人権に関する指導原則（UNGP）およびOECDの責任ある企業行動に関する指針にコミットしており、気候に関する行動を起こし、自然を尊重し、かつ移行期にある人々に可能性を与えることが共通の責任であると考えている。ラボバンクでは、リスク、リターンおよび持続可能性への影響に鑑みて事業を最適化している。当行は顧客とともに価値を創出しているが、個々の機会がより持続可能な未来に貢献しかつ当行の戦略に適合するものである必要がある。当行のリスク管理枠組みは、主要なリスク種別を通じて、既存のリスクおよびESGリスクを含む新たなリスクの双方をカバーする。当行は、銀行のあらゆる側面に組み込まれる、ESGリスクに対する完全で徹底したアプローチを採用してきた。当行は、気候リスク管理のためのツール、プロセスおよび機能を開発し、当行のポリシー枠組み、リスク評価および事業プロセスにこれらを取り入れることで、気候変動リスクを統合するための当行のアプローチをさらに改善し続けた。

2024年度上半期に、当行は当行の戦略の策定および実行手続きにダブル・マテリアリティ評価を取り入れた。当行のESGインパクト、リスクおよび機会の重要性を評価することは、当行の戦略的サイクルにおいて極めて重要なステップとなる。持続可能性、事業戦略およびリスク管理に関する統合的なアプローチを可能にするため、環境リスク・ロードマップおよびESGリスク・モデル・ビジョンが策定・更新された。



当行は、(1)環境リスク・ヒートマップ、成熟度評価、シナリオ分析および顧客リスク評価を通じたESGリスク評価、(2)脆弱なセクターの評価を含むセクター戦略、(3)引当金モデルおよびストレステストを含む信用リスク評価、ならびに(4)価格設定を含むポートフォリオ戦略に焦点を当てている。

当行はESGリスクに関するガバナンス、戦略およびリスク管理について、2024年8月発行の2024年度第2四半期に係るピラー3（第3の柱）報告書において開示している。ESGリスクは、複数の経路を通じてIFRS引当金に換算される。すなわち、当該引当金は、マクロ経済動向を通じてIFRS第9号のモデルで捕捉され、個別顧客評価に組み込まれ、セクター脆弱性評価に含まれ、そして気候の影響を直接受けるセクターまたは地域については、経営陣による調整が行われる。ラボバンクは、未だ現実には発生していない慢性的な気象現象（洪水や干ばつ等）に関連して、将来のESGリスクの上昇に備えた引当金も保持している。

信用リスク

全体として、ラボバンクの信用ポートフォリオの資産の質は堅固なものとなっているが、地政学的および経済的不確実性を踏まえ警戒心を持つ必要はある。資産の質が良好である要因は、当行の堅実な引受方針ならびにオランダ市場および国際的な食品・農業セクターへの戦略的な注力にある。これは、当行の強力かつ安定した担保ポジションおよび貸倒引当金繰入が少ないという実績に反映されている。当行の総NPL引当率（NPL引当率、NPL担保比率およびブルデンシャル・バックストップの組み合わせ）は高水準とみなされる98.0%となり（2023年度末：94.4%）、安定した状態を保っている。

信用ポートフォリオ

2024年6月30日時点におけるステージ2のエクスポージャーは、エクスポージャー全体の8.7%に相当する42.8十億ユーロとなった。なお2023年度末は10%であった。かかる減少は、脆弱とみなされるポートフォリオが削減されたことおよび脆弱なセクターに係るステージ2への分類のトリガー方法に構造的な変更があったことに起因する。従前は脆弱なセクターに対するエクスポージャーは全てステージ2に分類されていたが、現在はリスクベースのより精細なアプローチが採用されており、この方法の方が顧客レベルの信用リスクの悪化を反映できるものと考えられている。

貸倒引当金繰入は279百万ユーロ（年率13ベシス・ポイント）となったが、これは10年（2014年度から2023年度）平均の17ベシス・ポイントを下回っている。貸倒引当金繰入の減少は、国内の正常ポートフォリオにおいて取崩しが行われたことに起因する。セクターの脆弱性に係るステージ2トリガーにおいて取崩しが行われたが、後にステージ2減損引当金を増加させることとなるモデルの改良によって、当該取崩し分は相殺された。貸倒引当金繰入の多くは新たな格下げによりステージ3に分類されている。より平時に近い水準となった流入が貸倒償却によって相殺されたことにより、NPL比率は2023年度末（1.6%）と同水準である1.7%となった。

全ての事業ユニットを通じた全体としての資産の質は依然として良好であるが、特に注意が必要な点として、DRBの法人顧客の大幅にレバレッジされた取引、ルーラル（特に米国）、ブラジルのDLLおよびより一般的には運輸セクターに関する事項が挙げられる。これらは主に地政学、気候およびインフレの結果生じる潜在的な影響に起因するものである。

民間セクター向け貸付ポートフォリオ - 信用リスク

(単位：百万ユーロ)	ステージ構成	減損費用	2024年 6月30日		2023年 6月30日	
			減損引当金	ステージ構成	減損費用	減損引当金
エクスポージャー合計	443,125			433,100		
ステージ1	89.4%	51	472	89.9%	19	439
ステージ2	8.7%	-98	631	8.1%	-115	615
ステージ3	1.9%	326	1,992	2.0%	435	2,055
ラボバンク・グループ	100%	279	3,095	100%	339	3,109

民間セクター向け貸付ポートフォリオ - 構成

2024年6月30日現在 (単位：百万ユーロ)	DRB民間個人	DRB企業貸付	ホールセール・ アンド・ルーラル	DLL	その他	合計
エクスポージャー合計	195,704	75,821	127,666	43,814	119	443,125
ステージ1	92.9%	80.1%	92.3%	78.5%	99.9%	89.4%
ステージ2	6.6%	15.7%	5.4%	19.1%	0.0%	8.7%
ステージ3	0.5%	4.2%	2.4%	2.4%	0.1%	1.9%
純増	-4	-112	288	159	0	331
回収						-52
減損費用						279

住宅用不動産

オランダ国内の住宅ローン・ポートフォリオにおけるリスクは、主として堅実な引受基準、昨今の住宅価格の高騰、住宅の構造的不足および失業率の低さにより、依然として限定的である。平均住宅価格は2024年度上半期中も上昇したが、ラボ・リサーチでは、2024年度中に上昇率は6.7%に達し、2025年度には5.2%上昇すると予想している。

オランダ国内の住宅ローン・ポートフォリオの総エクスポージャーは194十億ユーロであり、好調を保っている。マクロ経済環境は安定しており、ポートフォリオは継続的に監視されている。2024年度上半期中、当該ポートフォリオのステージ2およびステージ3の割合に変動はなかった。

オランダ国内の住宅ローン・ポートフォリオの強靱な資産の質は、堅実な担保ポジションに支えられており、このことは9.7%というNPL引当率の低さ（2023年度：9.9%）、結果として0ベース・ポイント（2023年度：3ベース・ポイント）となる減損引当金の4百万ユーロの実質的な取崩し、50.7%という平均LTV比率の低さ（2023年度：53%）および15.9%という全国住宅ローン保証スキーム（NHG）の保証を伴うポートフォリオの割合（2023年度：16%）に表れている。

2024年度第1四半期にラボバンクはインタレスト・オンリー住宅ローン（IOM）の割合の測定方法を、AFMの定義する方法からECBの定義する方法に変更し、その結果IOMの割合は0.9%増加した。それにもかかわらず、インタレスト・オンリー住宅ローンの全体シェアは2024年度上半期中も減少を続け、50.1%となった（2023年度：50.7%）。AFMの定義に基づく2023年度末の期末成績は49.8%であった。インタレスト・オンリー住宅ローンに特有のリスクを捕捉するために行われた経営陣による調整額は、61.3百万ユーロであった（2023年度：65.6百万ユーロ）。

商業用不動産

ラボバンクの商業用不動産（CRE）の資金調達戦略は、オランダ市場、とりわけ低リスクのサブ・セクターに焦点を置いており、社会課題（住宅不足等）およびエネルギー移行に取り組んでいる。CREにおいては、一般的にリスクが低いとされる住宅用不動産貸付の割合が43%であり、次いでオフィスおよび混合利用（20%）、リテール・アウトレット（11%）、産業（8%）となる。ラボバンクのCREポートフォリオは2024年度上半期に約21.7十億ユーロ（民間セクター向け貸付ポートフォリオの5%）まで増加した。このポートフォリオについては、ローン・トゥー・バリュー（LTV）の引受基準およびキャッシュ・フロー・ベースの基準がより厳しくなったため、近年リスク回避が行われてきた。

オランダのCRE市場は、金利の急速な上昇により圧迫された2023年を経て、2024年上半期に底を打った。市況が改善され始めたことが、取得額および投資額の増加ならびに市場価格の安定につながっている。ラボバンクのポートフォリオの約77%が、この先少なくとも1年間は固定金利を維持する。当行の顧客の多くは、借り換え時により高い金利条件を満たすことができるだけの能力を有している。高インフレは、賃料収入の増加ももたらした。建築費用および利払いの増加により、この2年間でプロジェクト開発部門の課題は増したが、当該市場は現在新築住宅の価格高騰の恩恵を受けている。

ラボバンクにとって、自行のCREポートフォリオの規模、構成および資産の質は満足のいくものとなっている。LTVに変動はなく、2024年6月30日現在52%となっている（2023年12月31日時点は52%）。LTVが80%を超えるエクスポージャーは3%未満であった。

[前へ](#)

[次へ](#)

オペレーショナル・リスク

デジタル・オペレーショナル・レジリエンス/情報セキュリティ

顧客に信頼性の高い、安全な銀行サービスを提供するためには、オペレーショナル・レジリエンスが極めて重要である。デジタル・オペレーショナル・レジリエンス法（DORA）の実施は、この点で当行にとって主要な優先事項の一つである。生成AIや地政学的緊張によって複雑化し、進化し続けるサイバー脅威を背景に、オペレーショナル・レジリエンスを常に確保することは依然として困難な課題である。サイバー犯罪者は、情報セキュリティの脆弱性を悪用し、企業データを盗み、金融分野のサービス継続性を途絶させるための手法を革新し続けている。デジタル化により、当行はテクノロジーや金融エコシステム内のサード・パーティー・パートナーへの依存度を高めている。当行は、直面している脅威に基づき顧客データを保護するために、オペレーショナル・レジリエンス・アプローチを絶えず適応させている。オペレーショナル・レジリエンスの一環として、事業継続性管理（BCM）は継続的に改善されている。

コンプライアンスリスク

金融経済犯罪および制裁

DNBによる指導およびリテールNLの是正に係る進捗：ラボバンクのオランダ・リテール部門は、マネー・ロンダリング防止およびテロリスト資金供与防止法（オランダ語：ヴェット・テル・フォルコーミング・ファン・ヴィットワーセン・フィナンシーリング・ファン・テロリスメ（Wwft））の遵守に関する欠陥を是正するためのプログラムを着実に進めている。2021年12月にオランダ銀行（DNB）と合意したプログラムのマイルストーン（の大部分）の完了に加え、持続可能なコンプライアンスを確保するために、プログラムの成果物を「通常業務」組織に組み込むことに重点を置いている。EU AMLパッケージが正式に承認および公表された後、ラボバンクは、関連するAML規制が2027年7月に発効するまでの十分な実施時間を確保するため、その影響を見極め、新たな要件を内部方針および基準に反映し始めた。ラボバンクは、継続的に、関連するリスク管理戦略の適応・修正を行い、進化し続ける金融犯罪対策の要件に適応すべく、先進技術への投資を行うことに取り組んでいる。

オランダ検察庁による捜査：マネー・ロンダリング防止およびテロリスト資金供与防止法違反の疑いに関する犯罪捜査は継続中である。ラボバンクは、引続きオランダ検察庁に全面的に協力している。現時点では、進行中の捜査の期間や結果の見込みのいずれも、十分な確実性をもって判断することはできない。結果として、その後の罰金、罰則またはその他の関連する処分の性質および重大性は、これらが重大なものとなる可能性があるということ以外には、信頼性を持って推測することはできない。

制裁：ラボバンクは、サービスの提供およびその他行う全ての業務において、政府や国際機関により課される適用可能な制裁体制を遵守する。ラボバンクは、制裁規制の遵守を確保するとともに、DNBおよび/または資金情報機関（FIU）ならびにその他の地方所轄官庁への適切な報告を確実にを行うための厳格な監視、リスク評価および堅固な内部統制を備えている。ラボバンクは紛争の分野における動向を監視し、既存の制限措置への追加的な措置を含め、適用ある新たな制裁パッケージが公表された場合にはこれを実行する。制裁を巡る状況は、依然として非常に不安定かつ複雑であり、発動される制裁の断片化や分散化が進み、制裁への遵守はますます困難になっている。ラボバンクは、制裁の動向について、DNBおよびオランダ財務省と緊密に連携を取っている。1977年オランダ制裁法の改正については現在協議されており、予想される改正は、金融システムの門番としての当行の役割を強化するものである。

消費者信用商品

顧客を公平に扱うこと（TCF）は、適切な助言、責任ある貸付、適切な商品情報の提供および顧客フィードバックから学ぶことに関するものである。2024年度上半期中、当行は、これらの分野の商品・サービスをさらに改善し、ESG要件を追加した。ラボバンクは、特定の消費者信用商品の金利について、オランダ金融関連紛争処理機関（Kifid）が提示した基準相場に従って一貫した調整を行っていなかったことに対し、積極的に民間顧客への補償を行っている。ラボバンクは、2024年度末までに関連する全ての顧客に補償を提供することを目指している。ラボバンクは、2024年6月30日時点で、38百万ユーロ（2023年12月31日：56百万ユーロ）の引当金を計上した。住宅ローンにおける責任ある貸付に関しては、AFMは2024年7月3日、罰金決定の一部を取り消し、罰金を11.4百万ユーロ（600,000ユーロの減額）とすることを決定した。ラボバンクは6週間以内（2024年8月14日まで）にロッテルダム地方裁判所に不服申し立てを行うことができる。

データ機密性

変化するデータ保護に関する法令の継続的な遵守は、規制遵守プロセスならびにプライバシー・リスクおよび統制の監視を通じて確保される。ラボバンクが個人データを取り扱う法的義務または正当な利害関係を有する場合（例：Wwft）、ラボバンクは、データ保護に関する法令に従ってこれを行う。データ侵害が発生した場合、ラボバンクは再発防止策を講じ、必要に応じてオランダ・データ保護機関に通知する。顧客、従業員またはその他の利害関係者がラボバンクの苦情処理手続きを通じて、または直接オランダ・データ保護機関に不満を表明した場合、根本的原因が調査され、必要と判断された場合には改善措置が実施される。

不正

ラボバンクは、当行、顧客、そして金融セクターを保護するための取り組みの一環として、不正リスクが、顧客と当行双方にとって依然として最優先事項であることを認識している。ラボバンクは、不正行為による潜在的損失から信用・決済商品を注意深く監視し、不正リスクについて積極的に顧客に情報提供を行っている。これらの問題に正面から取り組むことで、当行は不正行為を最小限に抑えるよう努め、全ての利害関係者にとって安全な銀行環境を確保している。

[前へ](#) [次へ](#)

事業分野毎の業績

国内リテール・バンキング

オランダにおいて、国内リテール・バンキング（DRB）は、住宅ローン市場における融資の主要な提供者であり、貯蓄、決済、投資および保険の商品やサービスを提供している。また、DRBは、SMEおよび食品・農業市場における市場リーダーである。純受取手数料の増加が、2024年度上半期におけるDRBの収益合計の増加をもたらした。前年度と同様に、金融資産に係る減損費用の取り崩しが行われた。



4,946百万ユーロ
収益合計

2023年6月：4,893百万ユーロ

+1%

2,304百万ユーロ
営業費用合計

2023年6月：1,939百万ユーロ

+19%

194.3十億ユーロ

住宅ローン
貸付ポートフォリオ

2023年12月：193.8十億ユーロ

+0.3%

財務業績

業績			
単位：百万ユーロ	2024年 6月30日	2023年 6月30日	増減率
純受取利息	4,034	4,048	0%
純受取手数料	872	813	7%
その他収益	40	32	25%
収益合計	4,946	4,893	1%
人件費	1,731	1,515	14%
その他一般管理費	532	380	40%
減価償却費および償却費	41	44	-7%
営業費用合計	2,304	1,939	19%
総利益	2,642	2,954	-11%
金融資産に係る減損費用	-137	-41	234%
賦課金	48	195	-75%
税引前営業利益	2,731	2,800	-2%
法人税等	703	722	-3%
純利益	2,028	2,078	-2%
金融資産に係る減損費用（単位：ベースポイント）			
	-10	-3	

比率

収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	47.6%	43.6%
基礎的な収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	47.2%	43.7%

貸借対照表

単位：十億ユーロ	2024年 6月30日	2023年 12月31日	
外部資産	274.6	273.2	1%
民間セクター向け貸付ポートフォリオ	271.5	270.6	0%
顧客からの預金	331.6	324.7	2%
内部従業員数（単位：常勤換算従業員数）			
	24,733	24,038	3%
外部従業員数（単位：常勤換算従業員数）			
	6,823	6,960	-2%
合計従業員数（単位：常勤換算従業員数）			
	31,556	30,998	2%

財務業績に関する注記

税引前基礎的利益の変動			
単位：百万ユーロ	2024年 6月30日	2023年 6月30日	
収益	4,946	4,893	
営業費用	2,304	1,939	
費用調整	事業再構築費用	16	-2
基礎的費用	2,288	1,941	
金融資産に係る減損費用	-137	-41	
賦課金	48	195	
税引前営業利益	2,731	2,800	
合計調整額	16	-2	
税引前基礎的営業利益	2,747	2,798	

基礎的な業績はわずかに縮小

DRBの基礎的な業績は、2024年度上半期中、2023年度同期間中に比べわずかに縮小した。税引前基礎的営業利益は、前年度の2,798百万ユーロに対し2,747百万ユーロとなった。純受取手数料は、支払い、保険および投資商品に係る手数料の上昇を受け、増加した。新CLAの影響を受けた人件費の増加が継続中の効率化に向けた取り組みによる相殺を上回ったことにより、基礎的営業費用は増加した。また、当行の貸付ポートフォリオの信用度は依然高い水準であり、金融資産に係る減損費用が取り崩されることとなった。

収益はやや増加

収益合計は、4,946百万ユーロ（2023年度：4,893百万ユーロ）とやや増加した。純受取利息合計は4,034百万ユーロ（2023年度：4,048百万ユーロ）となった。純受取利息は比較的安定しており、預金に係る全体的なマージンは前年度と同程度であった。当行の新規貸付事業は、引続き実勢の競争環境の影響を受け、結果として住宅ローン・ポートフォリオの平均マージンがわずかに減少した。無利息預金からの移行によるマイナスの影響は、資本所得の増加によって相殺された。純受取手数料は、支払い、保険および投資商品に係る手数料が増加したことにより、872百万ユーロ（2023年度：813百万ユーロ）に増加した。投資商品に係る手数料は、主に新たな流入額（1.8十億ユーロ）および株式市場のプラスの動向を背景に運用資産が63.3十億ユーロに増加したことにより増加となった。住宅ローンに係る手数料収入の増加は、取引数の増加に起因する。2024年度上半期中、ラボバンクにおける保険仲介手数料は6%増加し175百万ユーロ（2023年度：166百万ユーロ）となった。その他収益は、40百万ユーロ（2023年度：32百万ユーロ）まで増加した。

営業費用は増加

営業費用合計は前年度に比べて19%増加し、2,304百万ユーロ（2023年度：1,939百万ユーロ）となった。全体の増加分の大半を占める人件費は、1,731百万ユーロ（2023年度：1,515百万ユーロ）に増加し、これには新CLAならびにFECおよびITへの追加増員による給与の増額が反映されている。その他一般管理費は、532百万ユーロ（2023年度：380百万ユーロ）に増加した。前年度と比較して、FECおよびクラウド費用は増加し、付加価値税の払戻額が減少したこともこの増加の一因となった。2023年度において、いくつかの引当金の取り崩しはその他一般管理費に下方効果をもたらした。減価償却費および償却費は、41百万ユーロ（2023年度：44百万ユーロ）にやや減少し、これはDRBの不動産ポートフォリオの動向に一致してオフィス数が減少したことによるものと思われる。

減損費用は減少

2024年度上半期中、当行の貸付ポートフォリオの信用度は依然高い水準であり、結果として金融資産に係る減損費用の取り崩しが行われた。減損費用は、-137百万ユーロ（2023年度：-41百万ユーロ）となり、これは、平均民間セクター向け貸付ポートフォリオの-10ベースポイント（2023年度：-3ベースポイント）に換算され、長期平均（2014年度から2023年度までの期間）の6ベースポイントを大幅に下回る。当該減少は、オランダ経済が比較的堅調であったことによる取り崩しが主な要因である。

貸付ポートフォリオは増加

上半期中、DRBポートフォリオの合計は、271.5十億ユーロ（2023年度：270.6十億ユーロ）に増加した。当該数値には、37.6十億ユーロ（2023年度：36.0十億ユーロ）のオフフィオンの貸付ポートフォリオが含まれる。2024年6月30日現在、当行の住宅ローン貸付ポートフォリオの合計額はやや増加し、194.3十億ユーロ（2023年度：193.8十億ユーロ）となった。2024年度上半期中、地方ラボバンクにおける顧客の追加住宅ローン返済額、すなわち、強制返済に追加して支払われた金額は、合計約6.6十億ユーロ（2023年度：6.5十億ユーロ）となった。当該追加返済額のうち1.5十億ユーロ（2023年度：0.9十億ユーロ）は部分返済に関連するものであり、5.2十億ユーロ（2023年度：5.6十億ユーロ）の一部は顧客の転居を理由とした住宅ローンの完済によるものであった。企業への貸付は、69.6十億ユーロ（2023年度：68.8十億ユーロ）にやや増加した。

セクター別貸付ポートフォリオ		
単位：十億ユーロ	2024年6月30日	2023年12月31日
民間個人顧客に対する貸付額	201.9	201.8
商業・工業・サービス業に対する貸付額	48.0	47.0
食品・農業に対する貸付額	21.6	21.8
民間セクター向け貸付ポートフォリオ	271.5	270.6

住宅ローン貸付ポートフォリオ

ラボバンクのオランダ住宅ローン市場におけるシェアは、2024年度上半期に新規に組まれた住宅ローンの18.6%（2023年度：19.3%）に減少した¹。住宅ローン貸付ポートフォリオの0.52%を占めた不良債権は、前年度よりもやや減少した。2024年度上半期中、当該ポートフォリオのリスクは全体として安定し、減損費用は年間レートで0ベースポイントとなり、ごくわずかであった。NHGが後援する融資は、15.9%（2023年度：15.6%）に増加した。2024年6月30日現在、住宅ローン貸付ポートフォリオの加重平均指数化されたLTVは51%（2023年度：53%）となった。

住宅ローン		
単位：百万ユーロ	2024年6月30日	2023年12月31日
住宅ローン・ポートフォリオ	194,260	193,787
加重平均LTV	51%	53%
不良債権（金額）	1,009	1,034
不良債権 （住宅ローン貸付ポートフォリオ合計に占める割合）	0.52%	0.53%
90日超の支払い遅延	0.13%	0.17%
NHGポートフォリオのシェア	15.9%	15.6%
金融資産における貸倒引当金	218	238
不良債権に基づくカバー率	10%	10%
純増額	-4	65
純増額(ベースポイント)	0	3
評価減	-22	-5

¹ 市場におけるシェアは、新たなデータ出典元であるヒポテック・データ・ネットワーク（HDN）に基づいて算出されており、比較数値はこれに従って調整される。

顧客からの預金は増加

オランダの民間貯蓄性預金市場は、2024年6月30日現在、5%成長して480.8十億ユーロ（2023年度：458.9十億ユーロ）となった。当行の市場シェアは35.1%（2023年度：34.7%）となった²。顧客からの預金は、未使用の休日手当も一因となり、331.6十億ユーロ（2023年度：324.7十億ユーロ）に達した。DRBに預金された個人貯蓄性預金は、9.3十億ユーロ増加し、172.4十億ユーロ（2023年度：163.0十億ユーロ）となった。顧客からのその他の預金は、2.4十億ユーロ減少して159.2十億ユーロとなった。法人顧客の多くは、COVID-19に関連して繰延べを受けた税金の一部を今なお支払う必要がある。また、当該金額の一部を自らの活動の資金調達のために使用する法人もあった。

² 出典元：スタティスティックス・ネザーランド（セントラル・ビューロー・フォー・デ・スタティスティーク）

[前へ](#)

[次へ](#)

ホールセール・アンド・ルーラル

代表的かつ世界的な食品・農業銀行として、ホールセール・アンド・ルーラルは、ヨーロッパ&アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリア&ニュージーランドおよびアジアという、5つの領域で顧客にサービスを提供している。当行のバンキング・フォー・フードおよびバンキング・フォー・ザ・ネザーランド戦略は、W&Rポートフォリオの原動力となっており、食料システムおよびエネルギーに係る移行は当行のホールセール事業にとって重要な焦点となっている。2024年度上半期におけるW&Rの純利益は、前年度同期間中と比較して61%の増加となった。収益は、キャピタル・マーケットおよびプロジェクト・ファイナンスの受取手数料が増加した一方で、ラボ・インベストメントの収益が減少したことに起因して、4%の増加となった。新規事業に係るイニシアチブおよびコンプライアンス関連活動のための増員に加え、インフレ圧力に関連した給与の引き上げにより、費用は増加した。金融資産に係る減損費用は、ホールセール・コア・レンディングにおける特定の引当金の減少により減少した。



1,993百万ユーロ
収益合計

2023年6月：1,911百万ユーロ

+4%

1,056百万ユーロ
営業費用合計

2023年6月：986百万ユーロ

+7%

127.7十億ユーロ
貸付ポートフォリオ

2023年12月：121.5十億ユーロ

+5%

財務業績

業績 単位：百万ユーロ	2024年 6月30日	2023年 6月30日	増減率
純受取利息	1,408	1,393	1%
純受取手数料	245	158	55%
その他収益	340	360	-6%
収益合計	1,993	1,911	4%
人件費	791	765	3%
その他一般管理費	215	161	34%
減価償却費および償却費	50	60	-17%
営業費用合計	1,056	986	7%
総利益	937	925	1%
金融資産に係る減損費用	274	328	-16%
賦課金	-	136	-100%
税引前営業利益	663	461	44%
法人税等	200	173	16%
当期純利益	463	288	61%
金融資産に係る減損費用（単位：ベースポイント）	44	54	

比率

収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	53.0%	58.7%
基礎的な収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	52.6%	59.1%

貸借対照表

単位：十億ユーロ	2024年 6月30日	2023年 12月31日	
外部資産	159.1	151.2	5%
民間セクター向け貸付ポートフォリオ	127.7	121.5	5%
顧客からの預金	25.3	25.5	-1%
内部従業員数（単位：常勤換算従業員数）	9,668	9,555	1%
外部従業員数（単位：常勤換算従業員数）	1,204	1,239	-3%
合計従業員数（単位：常勤換算従業員数）	10,872	10,794	1%

財務業績に関する注記

税引前基礎的利益の変動		
単位：百万ユーロ	2024年 6月30日	2023年 6月30日
収益	1,993	1,911
収益に対する調整		
公正価値項目	13	-13
基礎的収益	2,006	1,898
営業費用	1,056	986
金融資産に係る減損費用	274	328
賦課金	-	136
税引前営業利益	663	461
合計調整額	13	-13
税引前基礎的営業利益	676	448

基礎的な業績は増加

2023年度と比較して、2024年度上半期においてW&R部門の収益および純利益は増加した。2024年度上半期中の税引前基礎的営業利益は、2023年度上半期中の448百万ユーロに対し、676百万ユーロとなった。新規事業に係るイニシアチブおよびコンプライアンス関連活動により人員が増加したこと、また、インフレ圧力に起因して給与が引き上げられたことにより、費用は増加した。減損費用は、ホールセール・コア・レンディングにおける特定の引当金の減少により、2024年度上半期において減少した。

収益は堅調

W&Rの収益合計は、2024年度上半期中、1,993百万ユーロ（2023年度：1,911百万ユーロ）まで増加した。純受取利息は1,408百万ユーロ（2023年度：1,393百万ユーロ）とやや増加した。主に北アメリカおよびヨーロッパにおける資本に係る純受取利息は、世界的な金利上昇の恩恵を受けた。これは、金利デリバティブ、FXデリバティブやコモディティ・デリバティブといったリスク管理商品への顧客のアクセスを促進する、販売・取引部門における受取利息が減少したことにより部分的に相殺された。ここでは、金利上昇がマイナスの（資金調達コストの上昇）影響を及ぼした一方で、相殺ポジションからのプラスの業績がその他収益に反映されたことで、純受取利息からその他収益への移行が見られた。キャピタル・マーケット（ローンおよび債券・シンジケーション手数料による）およびプロジェクト・ファイナンス（主に持続可能プロジェクトの需要増加による）における収益が増加したことにより、純受取手数料は大幅に増加し245百万ユーロ（2023年度：158百万ユーロ）となった。その他収益は、プラスの再評価が限定的であったことやラボ・インベストメントにおける撤退により、20百万ユーロ減少し340百万ユーロ（2023年度：360百万ユーロ）となった。

営業費用は増加

2024年度上半期中、営業費用は増加し、1,056百万ユーロ（2023年度：986百万ユーロ）となった。W&Rにおける平均従業員数は増加し、かかる増加は、新規事業に係るイニシアチブおよびコンプライアンス関連活動によって説明可能である。インフレ圧力に関連した給与の引き上げに加え、人件費は791百万ユーロ（2023年度：765百万ユーロ）まで増加した。その他一般管理費は、付加価値税の還付額が減少したことにより、215百万ユーロ（2023年度：161百万ユーロ）まで増加した。減価償却費および償却費は、2023年度上半期中にコア・バンキング・トランスフォーメーション（CBT）について資本計上の戻入れがあったことから、50百万ユーロ（2023年度：60百万ユーロ）まで減少した。

減損費用は減少

ホールセール・コア・レンディングにおいて特定の引当金が減少したことを受け、昨年度同時期と比較して2024年度上半期の減損費用は減少した。これは、IFRS 9 モデルの改正により引き起こされた減損水準の上昇によって部分的に相殺され、ホールセールのステージ 1 および 2 の減損に影響を与えた。北アメリカにおける特定の引当金が増加したことにより、ルーラルの減損は増加した。金融資産に係る減損費用合計は、長期平均（2014年度から2023年度までの期間）の36ベースポイントを上回り、平均民間セクター向け貸付ポートフォリオの274百万ユーロ（2023年度：328百万ユーロ）、すなわち44ベースポイント（2023年度：54ベースポイント）となった。

オランダおよび国際ホールセール

ホールセール・ポートフォリオは、85.7十億ユーロ（2023年度：81.3十億ユーロ）となった。外国為替による影響を除いた場合、ホールセール・ポートフォリオは3.8十億ユーロ増加した。2024年度上半期中、オランダの最大規模の企業への貸付は、37.7十億ユーロ（2023年度：35.2十億ユーロ）までやや増加した。オランダ国外のホールセールの貸付ポートフォリオの規模は、2024年6月30日時点で、47.9十億ユーロ（2023年度：46.1十億ユーロ）であった。

国際ルーラル・バンキング

ルーラル顧客に対する貸付高は、41.1十億ユーロ（2023年度：39.0十億ユーロ）に達した。外国為替による影響を除いた場合、ルーラル・ポートフォリオは約2.0十億ユーロ増加した。ルーラル・バンキングの主な市場は、オーストラリア、ニュージーランド、米国およびブラジルであり、当行はまた、チリ、ペルーおよびアルゼンチンでも活動している。貸付ポートフォリオは、オーストラリアで14.8十億ユーロ（2023年度：13.2十億ユーロ）、ニュージーランドで7.9十億ユーロ（2023年度：7.7十億ユーロ）、米国で12.3十億ユーロ（2023年度：12.4十億ユーロ）、ブラジルで4.9十億ユーロ（2023年度：4.5十億ユーロ）ならびにチリ、ペルーおよびアルゼンチンで合計1.0十億ユーロ（2023年度：1.0十億ユーロ）となった。

顧客からの預金はわずかに減少

2024年度上半期中、顧客からの預金は25.3十億ユーロ（2023年度：25.5十億ユーロ）までわずかに減少した。オーストラリアおよびニュージーランドで稼働している当行のオンライン貯蓄性預金銀行に顧客が預けている預金は、10.0十億ユーロ（2023年度：9.8十億ユーロ）まで増加した。オンライン貯蓄性預金銀行の顧客の数は安定し、約220,000人（2023年度：220,000人）に達した。

リース事業

世界的なアセット・ファイナンス法人として、当行のリース子会社であるDLLは、事業者に対して設備、テクノロジーおよびソフトウェアへのより良いアクセスを提供できるよう、設備製造業者、ディーラーおよび販売業者だけでなく、エンドユーザー顧客とも直接的に提携している。DLLは、25カ国を超える国において、農業、食品、医療、クリーン・テクノロジー、建設、輸送、工業、事務設備および技術産業に対して金融ソリューションを提供している。DLLの純利益における13%の減少は、追加収益を生み出したポートフォリオの成長によって部分的に相殺された減損費用の増加に、主に起因している。リース・ポートフォリオは、2023年12月時点と比較して5%増加した。2024年6月30日時点で、ポートフォリオのうち食品・農業が占める割合は22.8十億ユーロ（2023年度：21.6十億ユーロ）に達し、DLLのポートフォリオの49%（2023年度：49%）を占めている。



940 百万ユーロ
収益合計

2023年6月：886百万ユーロ

+6%

512 百万ユーロ
営業費用合計

2023年6月：473百万ユーロ

+8%

46.4 十億ユーロ
ポートフォリオ

2023年12月：44.3十億ユーロ

+5%

財務業績

業績			
単位：百万ユーロ	2024年 6月30日	2023年 6月30日	増減率
純受取利息	707	645	10%
純受取手数料	54	52	4%
その他収益	179	189	-5%
収益合計	940	886	6%
人件費	366	335	9%
その他一般管理費	134	126	6%
減価償却費および償却費	12	12	0%
営業費用合計	512	473	8%
総利益	428	413	4%
金融資産に係る減損費用	142	55	158%
賦課金	1	28	-96%
税引前営業利益	285	330	-14%
法人税等	63	75	-16%
当期純利益	222	255	-13%
比率			
金融資産に係る減損費用（単位：ベースポイント）	63	29	
収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	54.6%	56.5%	
貸借対照表			
単位：十億ユーロ	2024年 6月30日	2023年 12月31日	
リース・ポートフォリオ	46.4	44.3	5%
民間セクター向け貸付ポートフォリオ	43.8	41.8	5%
内部従業員数（単位：常勤換算従業員数）	5,633	5,531	2%
外部従業員数（単位：常勤換算従業員数）	239	236	1%
合計従業員数（単位：常勤換算従業員数）	5,872	5,767	2%

財務業績に関する注記

収益合計は増加

2024年度上半期中、リース部門の収益合計は、6%増加し940百万ユーロ（2023年度：886百万ユーロ）となった。主にポートフォリオの成長により、また幾分かは資本所得の増加により、純受取利息は10%増加し、707百万ユーロ（2023年度：645百万ユーロ）となった。市場金利の急上昇にもかかわらず、DLLは、マージンにわずかな影響しか与えない価格設定で、取引高を維持することができている。純受取手数料は、ごくわずかに増加し54百万ユーロ（2023年度：52百万ユーロ）となった。その他収益は、主にオペレーティング・リースによる収益およびリースが終了した資産の売却から構成され、5%減少し179百万ユーロ（2023年度：189百万ユーロ）となった。

営業費用は増加

リース部門の営業費用合計は、8%増加して512百万ユーロ（2023年度：473百万ユーロ）となった。人件費は9%増加して366百万ユーロ（2023年度：335百万ユーロ）となった。事業の成長、ITおよびコンプライアンス関連活動を支えるため、2024年度上半期中、従業員数は、常勤換算従業員にして105人増加し5,872人となった。その他一般管理費は、ITへの投資の増加を要因として6%増加し、134百万ユーロ（2023年度：126百万ユーロ）となった。減価償却費および償却費合計は、12百万ユーロ（2023年度：12百万ユーロ）で安定していた。

減損費用は増加

ブラジルの食品・農業市場における現在の景気後退と同国南部における最近の洪水によってブラジルでの著しい信用減損が発生したことを主な要因として、2024年度上半期中における金融資産に係る減損費用は大幅に増加した。金融資産に係る減損費用は142百万ユーロ（2023年度：55百万ユーロ）となり、これは、平均貸付およびリース・ポートフォリオの63ベースポイント（2023年度：29ベースポイント）に一致し、DLLの長期平均（2014年度から2023年度までの期間）の43ベースポイントを上回っている。

リース・ポートフォリオの成長

リース・ポートフォリオは、5%（外国為替の影響を除いた場合は約4%）増加して46.4十億ユーロ（2023年度：44.3十億ユーロ）となり、全ての事業部門および地域が当該成長に寄与した。2024年度上半期中、食品・農業のポートフォリオにおけるシェアは、22.8十億ユーロ（2023年度：21.6十億ユーロ）まで増加し、DLLポートフォリオの49%（2023年度：49%）を占めている。

不動産開発

不動産開発部門は、主にバウフォンツ・プロパティ・ディベロップメント（BPD）の事業活動によって構成されており、これはオランダおよびドイツにおいて活動している。BPDに加え、同部門には、オランダの住宅向けコア・ファンドであるBPDウォーニングフォンツの業績（その資産評価を含む。）が含まれている。2024年度上半期には、オランダではマージンが回復傾向となっている取引が増加したものの、ドイツの住宅市場は、不確実性および非良心的な価格により、いまだ停滞している。全体として、これは当上半期におけるBPDの商業的業績に影響を及ぼした。



29^{百万ユーロ}

収益合計

2023年6月：57百万ユーロ

-49%

79^{百万ユーロ}

営業費用合計

2023年6月：77百万ユーロ

+3%

1,680^件

住宅用不動産
の取引軒数

2023年6月：1,551件

+8%

財務業績

業績			
単位：百万ユーロ	2024年 6月30日	2023年 6月30日	増減率
純受取利息	-25	-11	-127%
純受取手数料	-	-	
その他収益	54	68	-21%
収益合計	29	57	-49%
人件費	54	54	0%
その他一般管理費	21	19	11%
減価償却費および償却費	4	4	0%
営業費用合計	79	77	3%
総利益	-50	-20	150%
金融資産に係る減損費用	-	-	
賦課金	-	1	-100%
税引前営業利益	-50	-21	138%
法人税等	-20	-1	1900%
当期純利益	-30	-20	50%

比率

収益に対する費用の比率（賦課金を含む）	272.4%	136.8%	99%
---------------------	--------	--------	-----

貸借対照表

住宅用不動産の取引軒数	1,680	1,551	8%
-------------	-------	-------	----

単位：十億ユーロ	2024年 6月30日	2023年 12月31日	
開発中住宅	1,433	1,370	5%
内部従業員数（単位：常勤換算従業員数）	648	657	-1%
外部従業員数（単位：常勤換算従業員数）	54	38	42%
合計従業員数（単位：常勤換算従業員数）	702	695	1%

財務業績に関する注記

収益は減少

不動産開発部門の収益合計は、金利上昇による資金調達コストの増加、また、一部はドイツにおけるマージンの低下により、29百万ユーロ（2023年度：57百万ユーロ）まで減少した。ドイツの住宅市場は不確実性および非良心的な価格により停滞しており、ドイツ市場はいまだ改善する兆しを示していない。一方、オランダの市場は、マージンが回復傾向となっている取引が増加していることから、昨年度と比較して改善している。2024年度上半期には、2023年度下半期に計上した204百万ユーロの減損に加え、ドイツの土地ポジションおよびいくつかのプロジェクトについて43百万ユーロの減損が計上された。これらの減損は、その他収益にほぼ完全に反映されている。

BPDウォーニングフロンツにおいて、開発中住宅の平均数が増加したことにより、賃貸料所得が増加した。BPDウォーニングフロンツのポートフォリオ合計は、開発中住宅1,433件（2023年度：1,370件）、建設中ユニット1,289件（2023年度：1,295件）、さらに計画進行中の住宅2,337件（2023年度：2,194件）によって構成されており、住宅用不動産はポートフォリオ全体で合計5,000件超となっている。

営業費用は比較的安定

営業費用合計は、79百万ユーロ（2023年度：77百万ユーロ）で比較的安定していた。BPDは、事業活動の減少に適応し、従業員数の減少が基本給の引き上げを相殺したことにより、人件費を合計54百万ユーロ（2023年度：54百万ユーロ）と安定した水準に維持することができた。その他一般管理費は、21百万ユーロ（2023年度：19百万ユーロ）となった。減価償却費および償却費は安定し、4百万ユーロ（2023年度：4百万ユーロ）となった。

住宅用不動産の取引軒数はやや増加

現在の市況が昨年度同時期と比較してやや改善していることから、住宅用不動産の合計取引軒数は1,680件（2023年度上半期：1,551件）まで増加した。売却可能な新規プロジェクト数は、建築費の増加および住宅ローン金利の上昇のために依然として苦戦している。しかしながら、オランダにおける取引軒数は1,571件（2023年度上半期：1,450件）まで増加し、ドイツにおける取引軒数の合計は109件（2023年度上半期：101件）までやや改善した。

[前へ](#) [次へ](#)

最近の動向

該当事項なし。

[前へ](#)

[次へ](#)

(2) 生産、受注及び販売の状況

上記「(1) 業績等の概要」を参照のこと。

(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

上記「(1) 業績等の概要」を参照のこと。

[前へ](#)

4【経営上の重要な契約等】

該当する契約はない。

5【研究開発活動】

当上半期中、重要な変更はなかった。

第4【設備の状況】

1【主要な設備の状況】

当上半期中、重要な変更はなかった。

2【設備の新設、除却等の計画】

当上半期中、重要な変更はなかった。

第5【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

該当事項なし。

コーペラティブ・ラボバンク・ウー・アーには加盟者はいるものの、株主は存在しない。

【発行済株式】

該当事項なし。

(2)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(3)【発行済株式総数及び資本金の状況】

該当事項なし。

上記「(1)株式の総数等」を参照。

(4)【大株主の状況】

該当事項なし。上記「(1)株式の総数等」を参照。

コーペラティブ・ラボバンク・ウー・アーには加盟者はいるものの、株主は存在しない。2024年6月30日現在、コーペラティブ・ラボバンク・ウー・アーには約2.2百万人の加盟者がいる。

2【役員の状況】

経営委員会

ララ・ヨカリーニは、2024年6月5日付でラボバンクの経営委員会メンバーに就任した。同氏はベンダー・ファイナンス（DLLインターナショナル）を主に担当している。

生年月日

1980年11月15日

経歴

2024年度から現在	ベンダー・ファイナンス グループ・ディレクター
2021年度から2024年度	ルーラルおよび食品・農業 グローバル・ヘッド
2020年度から2021年度	ホールセール・アンド・ルーラル 戦略・改革ヘッド
2017年度から2019年度	グローバルCIBクライアント・ユニット - ナティクシス・コーポレート&インベストメント・バンキング
2013年度から2017年度	アソシエイト/エンゲージメント・マネージャー/アソシエイト・パートナー - マッキンゼー・アンド・カンパニー
2008年度から2012年度	エグゼクティブ・マネージャー - チャートウェル・ハウジング・ファイナンス・ソリューションズ
2005年度から2007年度	パートナーシップ・オフィサー兼ポリシー・スペシャリスト - 国連開発計画
2003年度から2005年度	コンサルタント/ローカル・ガバナンス・アドバイザー - SNVオランダ開発組織

所有株式

該当事項なし。コーペラティブ・ラボバンク・ウー・アーには加盟者はいるものの、株主は存在しない。

ララ・ヨカリーニの任命により、取締役の人数は以下のとおり変更された。

男性の役員の数：6名

女性の役員の数：3名（女性の役員の割合：33%）

第6【経理の状況】

ラボバンクの要約中間連結財務諸表は欧州連合が採用している国際財務報告基準（IFRS）に従って作成され、国際会計基準（IAS）第34号「期中財務報告」に従って表示されている。ラボバンクが採用している会計原則と日本において一般に公正妥当と認められる会計原則の主要な相違点は、以下に記す「3 国際財務報告基準(IFRS)と日本における会計原則及び会計慣行の相違」で説明している。

以下に記載されているラボバンクの2024年6月30日に終了した半期に係る要約中間連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第328条第1項の規定に従って作成されている。

ラボバンクの要約中間連結財務諸表の英語版は、オランダにおけるラボバンクの独立した会計監査人であるプライスウォーターハウスクーパース・アカウンタンツ・エヌ・ブイによる監査を受けていない。

ラボバンクの公表した要約中間連結財務諸表は百万ユーロで表示されている。以下の要約中間連結財務諸表で表示された円貨額は、利用者の便宜のためであり、財務諸表等規則第331条の規定に従って、2024年8月6日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売相場と買相場の仲値である1ユーロ = 158.88円の換算レートで換算されたものである。日本円に換算された金額は、四捨五入のため合計欄の数値が総数と一致しない場合がある。

1【中間財務書類】

連結財政状態計算書

連結財政状態計算書

	注記	2024年6月30日現在		2023年12月31日現在	
		百万ユーロ	百万円	百万ユーロ	百万円
資産					
現金および現金同等物		80,580	12,802,550	90,539	14,384,836
金融機関に対する貸出金および預け金		25,875	4,111,020	26,456	4,203,329
売買目的金融資産		5,440	864,307	3,747	595,323
強制的に公正価値で測定される金融資産		2,743	435,808	2,773	440,574
デリバティブ		20,977	3,332,826	21,992	3,494,089
顧客に対する貸出金および預け金	6	453,632	72,073,052	439,262	69,789,947
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		16,033	2,547,323	13,921	2,211,768
関連会社および共同支配企業への投資		1,890	300,283	1,793	284,872
のれんおよびその他無形資産		709	112,646	737	117,095
有形固定資産		4,033	640,763	3,976	631,707
投資不動産		753	119,637	703	111,693
当期税金資産		198	31,458	114	18,112
繰延税金資産		824	130,917	923	146,646
その他資産		7,494	1,190,647	6,590	1,047,019
売却目的固定資産	15	460	73,085	270	42,898
資産合計		621,641	98,766,322	613,796	97,519,908

	注記	2024年6月30日現在		2023年12月31日現在	
		百万ユーロ	百万円	百万ユーロ	百万円
負債					
金融機関預り金		15,959	2,535,566	15,823	2,513,958
顧客預り金	8	401,627	63,810,498	391,380	62,182,454
発行済負債証券		118,721	18,862,392	122,519	19,465,819
売買目的金融負債		743	118,048	475	75,468
公正価値測定に指定した金融負債		2,680	425,798	2,810	446,453
デリバティブ		14,954	2,375,892	15,434	2,452,154
その他負債		5,792	920,233	5,525	877,812
引当金		601	95,487	612	97,235
当期税金負債		215	34,159	561	89,132
繰延税金負債		236	37,496	198	31,458
劣後債務		8,615	1,368,751	8,817	1,400,845
売却目的負債		2	318	1	159
負債合計		570,145	90,584,638	564,155	89,632,946
資本					
準備金および利益剰余金	10	38,992	6,195,049	36,242	5,758,129
ラボバンクにより発行された資本性金融商品					
- ラボバンク証書	11	6,909	1,097,702	7,825	1,243,236
- 資本証券		4,972	789,951	4,975	790,428
		11,881	1,887,653	12,800	2,033,664
非支配持分		623	98,982	599	95,169
資本合計		51,496	8,181,684	49,641	7,886,962
負債および資本の合計		621,641	98,766,322	613,796	97,519,908

連結損益計算書

連結損益計算書

	注記	2024年度上半期		2023年度上半期	
		百万ユーロ	百万円	百万ユーロ	百万円
実効金利法を使用して認識する金融資産からの受取利息	1	13,457	2,138,048	11,876	1,886,859
その他の受取利息	1	136	21,608	115	18,271
支払利息	1	7,465	1,186,039	6,184	982,514
純受取利息	1	6,128	973,617	5,807	922,616
受取手数料		1,333	211,787	1,178	187,161
支払手数料		173	27,486	171	27,168
純受取手数料		1,160	184,301	1,007	159,992
その他の営業活動による収益	2	1,012	160,787	999	158,721
その他の営業活動による費用	2	813	129,169	780	123,926
その他の営業活動による純利益	2	199	31,617	219	34,795
関連会社および共同支配企業への投資からの利益		188	29,869	95	15,094
償却原価で測定する金融資産の認識中止から生じた利益 / (損失)		5	794	12	1,907
損益を通じて公正価値で測定する金融資産および金融負債に係る利益 / (損失)		342	54,337	447	71,019
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に係る利益 / (損失)		3	477	3	477
その他収益		113	17,953	92	14,617
収益合計		8,138	1,292,965	7,682	1,220,516
人件費	3	3,004	477,276	2,742	435,649
その他一般管理費	4	915	145,375	704	111,852
減価償却費および償却費		155	24,626	169	26,851
営業費用		4,074	647,277	3,615	574,351
金融資産に係る減損費用	5	279	44,328	339	53,860
規制上の賦課金		49	7,785	327	51,954
税引前営業利益		3,736	593,576	3,401	540,351
法人税		918	145,852	873	138,702
当期純利益		2,818	447,724	2,528	401,649
うち、ラボバンク帰属分		2,443	388,144	2,126	337,779
うち、ラボバンク証券帰属分		239	37,972	254	40,356
うち、ラボバンクにより発行された資本証券帰属分		101	16,047	101	16,047
うち、非支配持分帰属分		35	5,561	47	7,467
当期純利益		2,818	447,724	2,528	401,649

要約連結包括利益計算書

要約連結包括利益計算書

	2024年度上半期		2023年度上半期	
	百万ユーロ	百万円	百万ユーロ	百万円
当期純利益	2,818	447,724	2,528	401,649
特定の条件に合致した場合に損益に振り替えられる その他の包括利益（税引後）：				
在外営業活動体に係る為替差損益	224	35,589	(205)	(32,570)
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債 性金融商品の公正価値の増加 / （減少）	(11)	(1,748)	36	5,720
ヘッジ・コスト	77	12,234	8	1,271
キャッシュ・フロー・ヘッジ	18	2,860	(11)	(1,748)
関連会社および共同支配企業のその他の包括利益への 持分	12	1,907	(6)	(953)
損益に振り替えられることのないその他の包括利益 （税引後）：				
退職後給付債務の再測定	(1)	(159)	2	318
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本 性金融商品の公正価値の増加 / （減少）	(11)	(1,748)	12	1,907
関連会社および共同支配企業のその他の包括利益への 持分	7	1,112	(1)	(159)
公正価値測定に指定した金融負債に係る自己の信用 リスクによる公正価値の減少 / （増加）	(17)	(2,701)	9	1,430
その他の包括利益	298	47,346	(156)	(24,785)
包括利益合計	3,116	495,070	2,372	376,863
うち、ラボバンク帰属分	2,742	435,649	1,970	312,994
うち、ラボバンク証書帰属分	239	37,972	254	40,356
うち、ラボバンクにより発行された資本証券帰属分	101	16,047	101	16,047
うち、非支配持分帰属分	34	5,402	47	7,467
包括利益合計	3,116	495,070	2,372	376,863

連結持分変動計算書

連結持分変動計算書

	注記	準備金および 利益剰余金		ラボバンクにより発行された 資本性金融商品		非支配持分		合計	
		百万ユーロ	百万円	百万ユーロ	百万円	百万ユーロ	百万円	百万ユーロ	百万円
2023年12月31日現在残高		36,242	5,758,129	12,800	2,033,664	599	95,169	49,641	7,886,962
当期純利益		2,783	442,163	-	-	35	5,561	2,818	447,724
その他の包括利益		299	47,505	-	-	(1)	(159)	298	47,346
包括利益合計		3,082	489,668	-	-	34	5,402	3,116	495,070
ラボバンク証書に係る支払額	11	(239)	(37,972)	-	-	-	-	(239)	(37,972)
ラボバンク証書償還	11	(85)	(13,505)	(916)	(145,534)	-	-	(1,001)	(159,039)
その他		(8)	(1,271)	(3)	(477)	(10)	(1,589)	(21)	(3,336)
2024年6月30日現在残高		38,992	6,195,049	11,881	1,887,653	623	98,982	51,496	8,181,684
2022年12月31日現在残高		33,029	5,247,648	12,796	2,033,028	533	84,683	46,358	7,365,359
当期純利益		2,481	394,181	-	-	47	7,467	2,528	401,649
その他の包括利益		(156)	(24,785)	-	-	-	-	(156)	(24,785)
包括利益合計		2,325	369,396	-	-	47	7,467	2,372	376,863
ラボバンク証書に係る支払額		(254)	(40,356)	-	-	-	-	(254)	(40,356)
ラボバンクにより発行された資本証券 に関する支払額		(101)	(16,047)	-	-	-	-	(101)	(16,047)
その他		(3)	(477)	-	-	14	2,224	11	1,748
2023年6月30日現在残高		34,996	5,560,164	12,796	2,033,028	594	94,375	48,386	7,687,568

要約連結キャッシュ・フロー計算書

要約連結キャッシュ・フロー計算書

	2024年度上半期		2023年度上半期	
	百万ユーロ	百万円	百万ユーロ	百万円
税引前営業利益	3,736	593,576	3,401	540,351
税引前営業利益に認識されている非現金項目	329	52,272	237	37,655
営業活動に関する資産および負債の変動(純額)	(12,525)	(1,989,972)	(18,767)	(2,981,701)
営業活動によるキャッシュ・フロー(純額)	(8,460)	(1,344,125)	(15,129)	(2,403,696)
投資活動によるキャッシュ・フロー(純額)	(116)	(18,430)	(34)	(5,402)
財務活動によるキャッシュ・フロー(純額)	(2,050)	(325,704)	2,751	437,079
現金および現金同等物残高の増減額(純額)	(10,626)	(1,688,259)	(12,412)	(1,972,019)
1月1日現在の現金および現金同等物残高	90,539	14,384,836	129,580	20,587,670
現金および現金同等物残高の増減額(純額)	(10,626)	(1,688,259)	(12,412)	(1,972,019)
現金および現金同等物残高に係る為替差損益	667	105,973	(329)	(52,272)
6月30日現在の現金および現金同等物残高	80,580	12,802,550	116,839	18,563,380

中間財務諸表に対する注記

企業情報

ラボバンクは、協同組合の原則に基づき事業を行う国際的な金融サービス・プロバイダーである。ラボバンクは、オランダにおけるあらゆる金融サービスの提供および食品・農業セクターに属する顧客に対する国際的なサービス提供に注力している。ラボバンクは、リテール・バンキング、ホールセール・バンキング、ルーラル・バンキング、プライベート・バンキング、ベンダー融資、リースおよび不動産開発事業において、その戦略に従い商品・サービスを顧客に提供することにより価値を創出している。ラボバンクの中間財務諸表にはコーペラティブ・ラボバンク・ウー・アーおよびオランダ国内外のその連結子会社の財務情報が記載されている。

作成基準

ラボバンクの中間財務諸表は、欧州連合により採択された国際会計基準（以下「IAS」という）第34号「期中財務報告」に従って作成されている。

中間財務諸表の公表に関して、ラボバンクは連結包括利益計算書および連結キャッシュ・フロー計算書の要約版を表示することを選択した。本中間財務諸表は、連結財務諸表に要求される情報や開示のすべてを含んでいないため、ラボバンクの2023年度連結財務諸表と併せて読むべきである。当該連結財務諸表は欧州連合（以下「EU」という）により採択された国際財務報告基準（以下「IFRS」という）およびオランダ民法典第2編第9章の該当する条項に準拠して作成されている。本報告書で使用されている会計方針は、注記「国際会計基準審議会（以下「IASB」という）により公表され、EUにより採択された、当事業年度に適用される新基準および修正基準」に記載された会計方針の変更を除き、2023年度連結財務諸表に対する注記に記載されたものと一致している。

IASBにより公表され、EUにより採択された、当事業年度に適用される修正基準

IAS第1号およびIFRS第16号に軽微な修正が加えられており、2024年1月1日以降に開始する事業年度から適用されている。当該修正は、負債の流動または非流動への分類、特約条項付の非流動負債、セール・アンド・リースバック取引におけるリース負債に関するものである。IAS第7号およびIFRS第7号にも軽微な修正が加えられており、2024年1月1日以降に開始する事業年度から適用されている。IAS第7号およびIFRS第7号の修正は、企業のサプライヤー・ファイナンス契約に関する情報の開示に関するものであり、当該契約が企業の負債およびキャッシュ・フローならびに流動性リスクに対するエクスポージャーを評価できるようにすることを目的としている。IAS第7号およびIFRS第7号の修正の適用による損益または資本への影響はない。

IASBにより公表されたが、EUによりまだ採択されていない、当事業年度にはまだ適用されない基準の修正

金融商品の分類および測定に関するIFRS第7号およびIFRS第9号の修正

IASBは、環境・社会・ガバナンス（ESG）連動要素が組み込まれたものを含む金融資産の契約上のキャッシュ・フローの特性の評価および電子決済システムを用いて決済される金融負債に関連する要求事項を修正した。IASBはまた、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される資本性金融商品への投資に関連する開示規定を修正し、基本的な融資に係るリスクおよびコストに直接関連しない条件付要素を有する金融商品の開示規定も追加した。これらの修正は2026年1月1日以降に開始する事業年度から適用される。これらの新しい要求事項は現在分析中であり、その影響はまだ不明であるが、ラボバンクは、これらの修正の適用により金融資産の測定区分が変更されることはなく、また損益または資本に影響が及ぶことはないと予想している。

IFRS第18号「財務諸表における表示及び開示」

本基準は、損益計算書、財政状態計算書および持分変動計算書における情報の表示について一般のおよび具体的な要求事項を定めたものである。本基準はまた、注記における情報開示に係る要求事項も定めている。本基準はIAS第1号を置き換えるものであり、2027年1月1日以降に開始する事業年度から適用される。本基準の適用による損益または資本への影響はないものの、損益計算書の表示には影響し、また、経営者が定義した業績指標の追加的開示が必要になることが予想される。

IFRS第19号「公的説明責任のない子会社：開示」

本基準は、公的説明責任のない子会社を対象とするものであり、当該企業が他のIFRS会計基準の開示要求事項に代えて適用することが許容される開示規定を定めている。本基準は2027年1月1日以降に開始する事業年度から適用される。本基準はラボバンクの連結財務諸表には適用されない。

その他の修正

IAS第21号「外国為替レート変動の影響」に対して軽微な修正が加えられた。本修正は2025年1月1日以降に開始する報告年度から適用され、早期適用が認められる。これらの修正は、通貨が交換可能でない場合における直物為替レートの評価を明確化するものである。これらの新しい要求事項は現在分析中であり、その影響はまだ不明であるが、ラボバンクは、これらの修正の適用が損益または資本に影響を及ぼすことはないと予想している。

継続企業

経営委員会は、本財務諸表の作成に当たり、継続企業的前提を採用したことは適切であると判断している。これは、継続企業的前提を裏付けるラボバンクの中期計画（MTP）および予算編成プロセスに基づいている。

判断および見積り

経営陣は、本中間連結財務諸表の作成に当たり、中間連結財務諸表日現在の資産および負債の計上金額、偶発資産および偶発債務の計上、ならびに報告期間中の収益および費用の計上金額に影響を与える見積りおよび仮定について判断を行った。

下記の会計原則では、評価および仮定に基づく重要な見積りを必要とする。経営陣の見積りは、利用可能な財務データや情報を基礎とする、現在の状況および活動に関するこの上なく慎重な評価に基づいて行われているが、実際の結果はこれらの見積りから乖離する可能性がある。

金融資産の減損引当金

ラボバンクは、3つのステージから成る予想信用損失（ECL）減損モデルを適用して予想信用損失の測定および認識を行っており、これには経営陣の判断を伴う。同モデルに基づく減損引当金の計上に係る予想信用損失の算出において、ラボバンクは見積りと経営陣の判断を用いている。特定の状況においては、モデルの結果に加え、ラボバンクは本注記において説明する経営陣の調整（MA）を適用している。これらの経営陣の調整においては、多くの場合、重要な判断が求められる。モデルに基づく減損引当金に関する詳細な情報は、注記7「金融資産に係る減損引当金」に記載している。

信用減損している金融資産で個別に評価するものについては、割引キャッシュ・フローの計算を行う。多くの場合、予想将来キャッシュ・フローの見積りと使用する（3つの）シナリオの加重に判断が求められる。

二次的影響に関する経営陣の調整

法人顧客に対するステージ1および2の貸出金について二次的影響に関する経営陣の調整74百万ユーロ（2023年12月31日：185百万ユーロ）が認識された。この二次的影響に関する経営陣の調整は、現在正常先である法人顧客の（とりわけ、高いインフレ率による）返済能力に影響を与える可能性のある地政学的緊張の高まりに関連する追加的な信用リスクを捕捉するためのもので、IFRS第9号のモデルでは十分に捕捉されないことから行われるものである。金額の大幅な減少は主に、債務者の財務状況の査定において、オランダの法人顧客のCovid関連の補助金の返済および繰延税金の支払いの状況が十分に捉えられるようになったためである。

インタレスト・オンリー・モーゲージに関する経営陣の調整

インタレスト・オンリー・モーゲージ（以下「IOM」という）は、住宅ローンを将来的に負担できるかという点で償却型の住宅ローンよりリスクが高いが、この追加的なリスクはIFRS第9号のモデルの結果に十分反映されていない。IOMに係る経営陣の調整は、再計算の上、ポートフォリオの変更およびマクロ経済的なシナリオの見直しの結果として61百万ユーロ（2023年12月31日：66百万ユーロ）に減額された。IOMに関する監督当局の監視は続いており、今後、所要自己資本および減損の引当水準が影響を受ける可能性がある。

気候変動リスクに関する経営陣の調整：窒素

2019年5月にオランダの最高行政裁判所が下した判決により、窒素の排出は、住宅開発や建設、高速道路の拡張などの許可を得たプロジェクトでなければ認められなくなった。こうした窒素削減の措置は社会全体に影響を及ぼしており、特に農家が大きな影響を受けている。ラボバンクは、オランダにおける現在の農業の仕組みは限界に達しており、変化が必要であると認識している。農業セクターの展望は、自然や水、気候、生物多様性、動物福祉の分野における2023年から2040年までの期間に達成すべき目標を組み込むよう更新されている。ラボバンクは農業セクターの大部分に資金調達を行っているため、より持続可能なセクターに向けたこの移行期において、農業セクターの顧客支援に取り組んでいる。オランダ政府は2022年6月、農家の窒素排出削減目標や見通しが盛り込まれたオランダ窒素プラン（Nitrogen Plans for the Netherlands）を公表した。ラボバンクによる積極的な働きかけを含む数多くの利害関係者を巻き込んだ広範に及ぶ交渉にもかかわらず、「農業合意」にはまだ至っていない。最近欧州で実施された選挙の結果は、農業セクターを巡る不確実性を長期化させることになる。こうした不確実性の評価により、経営陣の調整が行われた。畜産セクターの農家のビジネスモデルの収益性と持続可能性のスコアリングを行い、これに基づいて、関連する追加的な予想信用損失を算定した。改善された見通しと方法を使用した結果、経営陣の調整は24百万ユーロ（2023年12月31日：47百万ユーロ）に減少した。

気候変動リスクに関する経営陣の調整：将来予測的な気候関連および環境（以下「C&E」という）リスク

規制が一段と強化され（移行リスクを発生させ）、気候の温暖化として異常気象がさらに進み干ばつや洪水など（物理的リスク）の事象の発生確率が上昇・発生規模が増大することでリスクはいずれも主に将来的に顕在化することが予想される。気候変動リスクに関する経営陣の調整は、この恒常的な将来の（将来予測的な）C&Eリスクの上昇をカバーするものであり、その額は16百万ユーロ（2023年12月31日：14百万ユーロ）である。

この経営陣の調整は、住宅ローン・ポートフォリオと、法人顧客のポートフォリオの中でも気候変動リスクの影響を受けやすいと定義されるセクターを対象としている。気候変動リスクの影響を受けやすいセクターの範囲は、時間軸を5年から10年に設定した、気候変動リスクに最も関連する5つの事象（干ばつ、山火事、豪雨、水不足、洪水）が用いられたC&Eリスクのヒートマップに基づいている。

気候変動リスクに関する経営陣の調整：異常気象

ブラジルにおけるエクスポージャーに影響するエルニーニョを主な理由として、2023年12月において現在の異常気象の影響に関する4百万ユーロの経営陣の調整を認識した。この信用リスクの影響は、現在はそれに影響される顧客の債務者区分判定において考慮されているため、この経営陣の調整は2024年6月に取り崩されている。

IFRS第9号のモデルの再開発に関する経営陣の調整

ラボバンクはIFRS第9号に関するいくつかのモデルを再開発しており、IFRS第9号に関する企業モデルの再開発の成果は2024年6月30日の減損引当金に織り込まれている。ただし、このIFRS第9号に関する新しい企業モデルはまだ適用されないため、モデルの結果に付け加える形で織り込まれている。経営陣の調整として152百万ユーロ（2023年12月31日：21百万ユーロ）が認識された。

その他の経営陣の調整

残りの経営陣の調整は総額78百万ユーロ（2023年12月31日：マイナス9百万ユーロ）である。

金融資産および金融負債の公正価値

金融資産および金融負債の公正価値の決定に関する情報は注記12「金融資産および金融負債の公正価値」に記載されている。

のれん、その他無形資産、ならびに関連会社および共同支配企業への投資の減損

その他無形資産ならびに関連会社および共同支配企業への投資は、特定のトリガーが識別された時点で減損テストを実施するのに対し、のれんは、少なくとも年1回、減損テストを実施する。回収可能額が帳簿価額を下回る場合、減損損失が認識される。これらの資産の減損の評価に当たり、回収可能額を決定するには、市場価格、比較対象企業の価格、現在価値もしくはその他の評価手法、またはそれらの組み合わせに基づく見積りが必要となり、経営陣は、主観的な判断および仮定を行うことが求められる。基礎となる状況が変化した場合、これらの見積りや仮定により、計上額に大幅な差異が生じる可能性があることから、それらの見積りは極めて重要と考えられる。

課税

法人税ならびに関連する当期税金資産および負債ならびに繰延税金資産および負債の決定に際しては見積りを使用する。取引の税務上の取扱いは常に明確または確実であるとは限らず、複数の国において過年度の納税申告が多くの場合確定しないまま、長期にわたり税務当局による承認の対象となる場合がある。計上されている税金資産および負債は、入手可能な最善の情報、および適切な場合、外部の助言に基づいて決定されたものである。最終結果と当初の見積りの差異は、取扱いが合理的に確実になった期間に当期税金資産および負債ならびに繰延税金資産および負債として会計処理される。中間期間の法人税は、通年で予想される加重平均年次法人税率の最善の見積りに基づいて認識される。

2024年、オランダでは第2の柱に関する法規制が制定された。同法に基づき、ラボバンクは法域ごとのGloBE実効税率と最低税率15%の差額に相当するトップアップ税を支払う義務を負う。ラボバンクは、中間財務諸表に基づけば、現時点ではどの国においても平均実効税率が15%を下回ることはないと評価している。ただし、アイルランドにおいてのみ、ラボバンクは少額の国内トップアップ税を支払うことになると予想している。

その他引当金

IAS第37号の適用においては、現在の債務が存在するか否かの決定、ならびに資源流出の可能性、時期および金額を見積もるための判断が必要になる。法的手続および仲裁手続に係る引当金に関する判断についての詳しい情報は、注記9「法的手続および仲裁手続」に記載されている。

主たる財務諸表に対する注記

1. 純受取利息

純受取利息

単位：百万ユーロ	2024年度上半期	2023年度上半期
受取利息		
現金および現金同等物	2,144	2,532
金融機関に対する貸出金および預け金	607	246
顧客に対する貸出金および預け金	10,653	8,938
公正価値ヘッジ会計に利用されるデリバティブ	(197)	(37)
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	250	197
実効金利法を用いて測定する金融資産からの受取利息	13,457	11,876
売買目的金融資産	55	50
強制的に公正価値で測定される金融資産	10	5
マイナス金利の金融負債に係る受取利息	1	2
その他	70	58
その他の受取利息	136	115
受取利息合計	13,593	11,991
支払利息		
金融機関預り金	480	459
顧客預り金	4,415	3,166
発行済負債証券	2,511	2,087
売買目的金融負債	21	31
経済的にヘッジする目的で保有されるデリバティブ（利益） / 損失	(205)	153
公正価値測定に指定した金融負債	41	55
劣後債務	204	230
リース負債	7	8
その他	(9)	(5)
支払利息合計	7,465	6,184
純受取利息	6,128	5,807

2. その他の営業活動による純利益

その他の営業活動による純利益

単位：百万ユーロ	2024年度上半期	2023年度上半期
不動産事業からの収益	411	410
不動産事業による費用	379	353
不動産事業からの純利益	32	57
オペレーティング・リース事業からの収益	578	571
オペレーティング・リース事業による費用	423	413
オペレーティング・リース事業からの純利益	155	158
投資不動産からの収益	23	18
投資不動産による費用	11	14
投資不動産からの純利益	12	4
その他の営業活動による純利益	199	219

3. 人件費

人件費

単位：百万ユーロ	2024年度上半期	2023年度上半期
賃金および給与	1,799	1,581
社会保険拠出金および保険料	200	181
年金費用 - 確定拠出制度	252	224
その他の退職後給付引当金の繰入 / (戻入)	6	10
研修および旅費交通費	79	80
その他の人件費	668	666
人件費	3,004	2,742

4. その他一般管理費

その他一般管理費

単位：百万ユーロ	2024年度上半期	2023年度上半期
引当金の繰入および戻入	33	(81)
ITおよびソフトウェア費用	308	260
コンサルタント費用	240	242
広報費用	51	49
有形（無形）資産の認識中止および減損に係る損益	4	17
その他費用	279	217
その他一般管理費	915	704

5. 金融資産に係る減損費用

金融資産に係る減損費用

単位：百万ユーロ	2024年度上半期	2023年度上半期
顧客および金融機関に対する貸出金および預け金	325	395
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	1	1
償却後の回収額	(52)	(61)
ローン・コミットメントおよび金融保証	5	4
金融資産に係る減損費用	279	339

6. 顧客に対する貸出金および預け金

貸出金ポートフォリオの内訳を下表に示す。

顧客に対する貸出金および預け金

単位：百万ユーロ	2024年6月30日現在	2023年12月31日現在
顧客に対する貸出金および預け金の帳簿価額総額	467,704	453,550
ヘッジ会計による調整	(11,175)	(11,379)
顧客に対する貸出金および預け金に係る減損引当金	(2,897)	(2,909)
顧客に対する貸出金および預け金合計	453,632	439,262

顧客に対する貸出金および預け金（ステージ別）

単位：百万ユーロ				
2024年6月30日現在	ステージ1	ステージ2	ステージ3	合計
顧客に対する貸出金および預け金の帳簿価額総額	415,413	42,795	9,496	467,704
顧客に対する貸出金および預け金に係る減損引当金	420	603	1,874	2,897
2023年12月31日現在	ステージ1	ステージ2	ステージ3	合計
顧客に対する貸出金および預け金の帳簿価額総額	396,879	47,674	8,997	453,550
顧客に対する貸出金および預け金に係る減損引当金	393	706	1,810	2,909

7. 金融資産に係る減損引当金

下表に金融資産に係る減損引当金および信用関連の偶発債務の期首残高から期末残高までの増減を示す。

金融資産に係る減損引当金および信用関連の偶発債務

単位：百万ユーロ	ステージ1	ステージ2	ステージ3	合計
2024年1月1日現在の残高	421	733	1,935	3,089
当初認識および取得に伴う増加	129	9	44	182
認識中止に伴う減少	(83)	(36)	(178)	(297)
信用リスクの変動に伴う変動	3	(68)	486	421
当年度の不良債権の償却	(6)	(2)	(302)	(310)
その他の変動	6	(5)	(1)	-
2024年6月30日現在の残高	470	631	1,984	3,085

単位：百万ユーロ

	ステージ1	ステージ2	ステージ3	合計
2023年1月1日現在の残高	428	741	1,828	2,997
当初認識および取得に伴う増加	142	32	135	309
認識中止に伴う減少	(91)	(54)	(367)	(512)
信用リスクの変動に伴う変動	(44)	46	904	906
当年度の不良債権の償却	(11)	(4)	(549)	(564)
その他の変動	(3)	(28)	(16)	(47)
2023年12月31日現在の残高	421	733	1,935	3,089

信用リスクの著しい増大（以下「SICR」という）

資産をステージ1からステージ2へ振り替えるには判断が求められる。SICRの評価において考慮に入れる主なパラメータは、全期間におけるデフォルト確率と、当初認識から報告日までのその変動である。信用リスクの変動を評価するための分析は、多元的で全体論的な分析である。ある特定の要因が関連性があるか否か（また他の要因と比較してのウェイト）は、金融商品の種類、金融商品および借手の特性、ならびに地域に左右される。ラボバンクはまた、SICRの特定および評価に当たり定性的な指標をいくつか使用している。これらの指標には、以下が含まれる。

- ・ 内部信用格付：財政的困難
- ・ 債務不履行ではないエクスポージャーに対する返済猶予状況
- ・ バックストップとしての30日の延滞
- ・ 脆弱なセクター

2024年より脆弱なセクターに関するSICRのトリガーを修正し、集成的なSICRアプローチを、内部の債務者区分が早期警戒のエクスポージャーおよびレバレッジの高い取引に限定した。この修正により、正常債権について認識された予想信用損失は36百万ユーロ減少した。

デフォルト確率（PD）の閾値に対するECLの感応度を評価するために、すべての資産がPDの閾値未満であると仮定して12ヶ月のECLを割り当てる分析を行った。同じ資産を基礎として、すべての資産がPDの閾値を超えると仮定して全期間のECLを割り当てる分析も行った。両分析の結果のECLはそれぞれ772百万ユーロ（2023年12月31日：580百万ユーロ）および1,870百万ユーロ（2023年12月31日：1,670百万ユーロ）であった。2024年6月30日現在のステージ1およびステージ2の減損引当金の合計は1,101百万ユーロ（2023年12月31日：1,154百万ユーロ）である。

将来予測的情報およびマクロ経済シナリオ

ラボバンクは、各ステージの予想信用損失の見積りおよび信用リスクの著しい増大の評価において、過去の事象や現在の状況に関する情報、ならびに将来の事象および経済情勢に関する合理的で裏付け可能な予測（以下「将来予測的情報」という）を使用する。ラボバンクは、ECLモデルにおいて、確率加重した3つのマクロ経済シナリオ（基本シナリオ、下振れシナリオ、上振れシナリオ）を使用して予想信用損失を算出している。確率加重は、下振れシナリオについては20%（2023年12月31日：20%）、上振れシナリオについては20%（2023年12月31日：20%）、基本シナリオについては60%（2023年12月31日：60%）をそれぞれ使用している。重要な変数は国内総生産の成長率、失業率および民間セクター投資である。これら将来のマクロ経済的な予測には判断が必要であり、概ねラボバンク内部の調査を基にしている。ステージ1、ステージ2、およびモデルに基づくステージ3の引当金計上のためのECLモデル・プロセスにおいて使用した将来のマクロ経済に関する主なインプットの感応度分析、および3つの各シナリオに適用した確率加重が、ECLに占める割合が最も大きい地域、すなわちオランダについて、以下に示されている。

マクロ経済シナリオ

		2024年	2025年	2026年	加重前のECL	確率	加重後ECL (百万ユーロ) 2024年 6月30日現在	加重後ECL (百万ユーロ) 2023年 12月31日現在
オランダ	上振れ							
	国民1人当たり のGDP	0.33%	2.52%	0.45%				
	失業率	3.63%	3.24%	2.84%	1,087	20%		
	民間セクター投 資	-1.75%	3.30%	-2.22%				
基本	国民1人当たり のGDP	0.05%	1.01%	0.88%				
	失業率	3.77%	4.08%	4.29%	1,192	60%	1,191	1,199
	民間セクター投 資	-2.72%	-0.98%	1.62%				
下振れ	国民1人当たり のGDP	-0.20%	-0.39%	1.31%				
	失業率	3.90%	4.87%	5.64%	1,302	20%		
	民間セクター投 資	-3.62%	-5.23%	5.54%				

仮に下振れおよび上振れシナリオの確率加重をいずれも15%とし、基本シナリオの確率加重を70%とした場合、ステージ1、ステージ2、およびモデルに基づくステージ3のエクスポージャーに係る加重後の（全地域に関する）ECL合計は368千ユーロ（2023年12月31日：1百万ユーロ）減少することになる。他方、下振れおよび上振れシナリオの確率加重をいずれも25%とし、基本シナリオの確率加重を50%とした場合、ステージ1、ステージ2、およびモデルに基づくステージ3のエクスポージャーに係る加重後の（全地域に関する）ECL合計は378千ユーロ（2023年12月31日：1百万ユーロ）増加することになる。

信用リスクに影響を及ぼす可能性のある外的動向

環境リスク

気候変動や自然の変化による影響（物理的リスク）および気候中立経済へのシフトに関連するリスク（移行リスク）は、ラボバンクの優先対応事項である。

ラボバンクが重視しているのは、（１）環境リスク・ヒートマップ、マテリアリティの評価、シナリオ分析、顧客リスク・スコアを通じたESGリスクの評価、（２）脆弱セクターの評価を含むセクター別戦略、（３）引当金計上のモデル化やストレス・テストを含む信用リスクの評価、および（４）価格設定を含むポートフォリオ戦略である。ラボバンクは、2024年8月に公表予定の「2024年第2四半期第3の柱報告書」においてESGリスクに関連するガバナンス、戦略およびリスク管理を開示する。

ESGリスクは、複数のルートを通じてIFRSに基づく引当金に織り込まれる。すなわち、それらに対する引当金は、マクロ経済の動向を通じてIFRS第9号のモデルで捕捉され、個別の顧客評価に組み込まれ、セクター別脆弱性評価に含められ、さらに、気候の影響を直接受けるセクターまたは地域に関しては経営陣の調整が行われる。ラボバンクは、まだ顕在化していない恒常的な気象事象（洪水や干ばつなど）に関連して、将来のESGリスクの上昇に備えるために貸出金に対して減損引当金を認識した。ECLに関する経営陣の調整の適用に関しては、「判断および見積り」を参照のこと。

8. 顧客預り金

顧客預り金

単位：百万ユーロ	2024年6月30日現在	2023年12月31日現在
当座預り金	107,041	113,696
満期を合意済みの預り金	76,445	69,536
通知預り金	218,026	208,049
レボ契約	115	99
顧客預り金合計	401,627	391,380

14十億ユーロ（2023年12月31日：11十億ユーロ）の中央銀行からの資金供給以外の預り金は「満期を合意済みの預り金」に含まれている。

9. 法的手続および仲裁手続

ラボバンクは、相当の訴訟リスクを引き起こす法律・規制上の環境の中で活動している。ラボバンクはオランダおよび他の諸国において訴訟、仲裁および規制手続に関与している。この点に関する概要については、ラボバンクの2023年度連結財務諸表の注記4.9「法的手続および仲裁手続」を参照のこと。以下では、ラボバンクに負債を発生させる可能性のある、最も関連性の深い法律・規制上の訴訟について述べる。

個人向け信用商品

オランダ金融サービス苦情処理機関（以下「Kifid」という）は、特定の個人向け商品の貸手はそれら商品の変動金利を決定する際に市場金利の動きに従うべきであったとの判断を下した。ラボバンクは、一部の個人向け信用商品について、Kifidが選択した参照金利に沿った金利調整を必ずしも行っていなかったと認めた。ラボバンクは38百万ユーロ（2023年12月31日：56百万ユーロ）の引当金を認識した。この引当金の減少は支払い（顧客への補償）を行った結果である。

この事案のほかにも、オランダ金融市場庁（以下「AFM」という）は個人向けの住宅ローンに関するいくつかの書類の調査を実施し、2023年12月に課徴金支払いを命じた。ラボバンクはAFMに対して同決定についての異議申立てを行った。

マネーロンダリング防止、テロリスト資金供与防止および制裁

2021年末、オランダ中央銀行（以下「DNB」という）はラボバンクに対して、オランダのリテール部門のマネーロンダリング防止およびテロリスト資金供与防止法（オランダ語でWet ter voorkoming van witwassen en financieren van terrorisme、以下「Wwft」という）の遵守に関する不備を是正するよう命じた。指摘された不備は主に、顧客デューデリジェンスの実施、記録および外部委託、取引のモニタリング、ならびに異常な取引の報告に関するものである。是正計画の実施は引き続きラボバンクの最優先事項である。本件に関するラボバンクのオランダのリテール部門の取組みは順調に進んでいる。2021年12月にはDNBと合意の上でプログラムのマイルストーンを最終化したが、次は、2024年末の是正計画プログラムの完了後も持続的に遵守できるように、プログラムの成果を「通常業務」として組織に組み込むことが焦点となる。

Wwft違反の疑いに関係するオランダ検察庁による犯罪捜査は現在も継続中である。ラボバンクは引き続き全面的に協力している。現時点では、今後の捜査の結果や捜査に要する時間は依然として不明である。したがって、今後科せられ得る罰金や処罰、その他関係する措置の性質および重要性についても、信頼をもって見積もることはできず、重大になりかねないと述べる以上のことはできない。

欧州連合競争法に関する手続

欧州委員会が2023年11月22日に報道発表を通じて公表した通り、同委員会は、ドイツ銀行とラボバンクの少数の関係者間でなされた特定の過去のやりとりがEUの競争法に違反するとの結論を下し、これに関連してラボバンクに対して26.6百万ユーロの罰金を課した。これらの手続きは、欧州経済領域（EEA）におけるユーロ建SSA債（国際機関債、外国ソブリン債、準ソブリン債／政府機関債）および政府保証債の流通市場で2006年から2016年にかけての行為に関するものである。ラボバンクは欧州委員会の調査に協力したが、その結果については納得していない。ラボバンクは欧州委員会の決定を不服として欧州一般裁判所に上訴した。罰金は全額支払われている。

以上に関連して、2022年12月9日、ラボバンクおよび別の銀行1行に対して推定上の集団訴訟が、民事訴訟の原告によってニューヨーク州南部地区連邦地方裁判所に提起された。これらの民事訴訟は依然として初期段階にあり、具体的な損害賠償請求額はまだ提示されていない。ラボバンクは、本訴訟に対して、法律および事実に基づく実質的かつ説得力のある抗弁を有するという立場を取っており、これらの訴訟に対して引き続き争う方針である。ラボバンクは、資金流出の可能性がほとんどないとまでは言えないが、可能性が高いわけではないと考えているため、これら民事訴訟に関連して引当金を計上していない。最終的な結果を現段階で予測することは難しいため、ラボバンクはこの偶発債務を定量化することはできない。

BBAおよびICE Libor / Euribor

ラボバンクは、他の多数のパネル行およびディーラー間ブローカーと共に、米国の連邦裁判所における様々な推定上の集団訴訟および個別の民事訴訟の被告とされている。これらの訴訟は、米ドル(USD) Libor、英ポンド(GBP) Libor、日本円(JPY) Libor、Tibor(注:ラボバンクはTiborのパネル行を務めたことはない)およびEuriborに関するものである。また、ラボバンクは、金利ベンチマークに関連する民事訴訟(集団訴訟を含む)でオランダ、アルゼンチン、英国およびイスラエルの様々な裁判所への出廷をラボバンクに命じる訴状および召喚状を受け取った。上記の民事訴訟は、本質的に不確実性に晒されているため、その結果を予測することは困難である。ラボバンクはこれらの訴訟に対し実質的かつ説得力のある法律および事実関係に基づく抗弁を有するという立場を取っている。ラボバンクはこれらの訴訟に対して引き続き争う方針である。ラボバンクは、資金流出が発生する可能性が高くはないものの、ほとんどないとは言えないと考えているため、Libor / Euriborの事案グループを偶発債務と捉えている。ラボバンクは、この偶発債務によって予想される資金流出合計額について現時点においては信頼をもって見積もることはできない。引当金は計上していない。

その他の事案

ラボバンクが対象になっている、引当金を認識した法的手続は他にもある。これらの事案は各々が比較的小規模であることから個別に開示していない。引当金額を上記に明記していないこれらの事案を併せた引当金総額は54百万ユーロ(2023年12月31日:49百万ユーロ)である。上記以外の請求に関連する、発生する可能性がほとんどないとは言えない測定可能な偶発債務の金額は最大で38百万ユーロ(2023年12月31日:38百万ユーロ)である。

10. 準備金および利益剰余金

準備金および利益剰余金の内訳は以下のとおりである。

準備金および利益剰余金

単位：百万ユーロ	2024年6月30日	2023年12月31日	2023年6月30日
	現在	現在	現在
外国為替換算準備金	(700)	(938)	(834)
再評価準備金 - その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	(213)	(188)	(128)
再評価準備金 - キャッシュ・フロー・ヘッジ	(41)	(59)	(33)
再評価準備金 - ヘッジ・コスト	193	116	111
再測定準備金 - 年金	(67)	(75)	(55)
再評価準備金 - 公正価値測定に指定した金融負債に係る自己の 信用リスクに起因する公正価値の変動	(69)	(52)	(53)
利益剰余金	39,889	37,438	35,988
準備金および利益剰余金合計	38,992	36,242	34,996

11. ラボバンク証書

2024年6月30日現在、ラボバンクの所有分を含むラボバンク証書の総数は313,005,461口（2023年12月31日：313,005,461口）であり、1口当たりの額面価格が25ユーロ、総額は7,825百万ユーロ（2023年12月31日：7,825百万ユーロ）であった。ラボバンク証書はユーロネクスト・アムステルダムに上場されている。

2024年6月30日現在、資本に含まれるラボバンク証書は6,909百万ユーロ（2023年12月31日：7,825百万ユーロ）で、これは、ラボバンクがスティヒティング・アドミニストラティー・カントゥール・ラボバンク証書財団（AK財団）を通じて外部向けに発行する総数276,352,572口（2023年12月31日：313,004,668口）の証書を表章し、ラボバンクの普通株等Tier 1資本に区分される。

2024年上半期に、ラボバンクは発行済ラボバンク証書の保有者に対して現金を対価とするラボバンク証書の公開買付の機会を提供した。ラボバンクは額面価額で総額916百万ユーロ、36,652,880口のラボバンク証書を買戻すことに同意した。プレミアム、費用および潜在的な将来の分配を含む買付総額は1,001百万ユーロで、2024年5月に支払われた。連結持分変動計算書を参照のこと。

12. 金融資産および金融負債の公正価値

本注記は、2023年度連結財務諸表の注記4.8「金融資産および金融負債の公正価値」と併せて読むべきである。同注記には、採用された会計方針、公正価値の計算に使用された評価方法、および評価の監視の基準となる評価管理の枠組みがより詳細に示されている。採用された会計方針または適用された評価方法に変更はない。

次表は、以下に詳述されている評価方法および仮定に基づき償却原価で認識される金融商品の公正価値を示したものである。公正価値とは、評価日に市場参加者の間で実施される標準的な取引において、資産売却の対価として受け取られるであろう価格、または負債譲渡のために支払われるであろう価格を表す。ラボバンクは、公正価値の測定に関して、資産売却または負債譲渡の取引は、当該資産または負債の主要市場、あるいは主要市場が存在しない場合には最も有利な市場で実施されると仮定する。

ラボバンクが保有または発行している多くの金融資産および金融負債について市場価格が入手不可能である。これらの金融商品の場合、下表に示された公正価値は、報告日時点の市況に基づき、現在価値法または他の見積りおよび評価方法の結果を使用して見積られたものである。これらの方法を使用して算出される評価額は、金額のほか、将来キャッシュ・フローのタイミング、割引率および市場の流動性悪化の可能性に使用された前提となる仮定に大きく影響される。

財政状態計算書において償却原価で測定する金融商品の公正価値

単位：百万ユーロ	2024年6月30日現在		2023年12月31日現在	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
資産				
現金および現金同等物	80,580	80,580	90,539	90,541
金融機関に対する貸出金および預け金	25,875	25,862	26,456	26,378
顧客に対する貸出金および預け金	453,632	449,287	439,262	434,510
負債				
金融機関預り金	15,959	15,875	15,823	15,723
顧客預り金	401,627	401,457	391,380	391,447
発行済負債証券	118,721	116,757	122,519	120,622
劣後債務	8,615	8,478	8,817	8,794

上表に示された金額は、一定の方法と仮定に基づいて経営陣が行った最善の見積りである。活発な市場における市場価格が入手可能な場合は、それが公正価値の最善の見積りとされる。

期間の定めがある証券、資本性金融商品、デリバティブまたはコモディティ商品などに関して活発な市場における市場価格が入手できない場合、ラボバンクは、これらの投資の信用格付と満期までの期間に対応する市場金利で割引いた、将来キャッシュ・フローの現在価値に基づく予想公正価値を基準として用いる。また、モデルに基づく価格を公正価値の決定に使用することもできる。ラボバンクは、財政状態計算書に計上されている金融商品の評価のために使用したすべてのモデルを、金融商品の公正価値を算定するスタッフから独立している専門スタッフに検証させるという方針をとっている。

市場価値または公正価値の決定にあたっては様々な要因を検討しなければならない。かかる要因には、貨幣の時間的価値、ボラティリティ、原オプションおよび取引相手の信用の質が含まれる。評価プロセスは、定期的に入手可能な市場価格が体系的に使用されるように設計されている。仮定の修正は、売買目的および売買目的以外の金融資産および金融負債の公正価値に影響することもある。

下表は、金融資産および金融負債の公正価値決定に使用された公正価値ヒエラルキーを示したものである。内訳は以下のとおりである。

- ・レベル1：同一の資産または負債に関する活発な市場における市場価格。「活発な市場」とは、当該資産または負債に関連する取引が、価格情報を恒久的に提供するうえで十分な頻度と十分な取引量で行われている市場をいう。
- ・レベル2：レベル1に含まれる市場価格以外のインプットで、資産または負債に関して直接的（すなわち、価格として）または間接的（すなわち、価格からの派生として）に観察可能なもの。
- ・レベル3：観察可能な市場データに基づかない、資産・負債に関するインプット。

公正価値による金融商品の再評価では、ラボバンクは、各報告期間末時点のレベルを再評価することにより、公正価値ヒエラルキーの各カテゴリ間において振替が発生した時点を決定する。

財政状態計算書において公正価値で測定する金融資産および金融負債の公正価値ヒエラルキー

単位：百万ユーロ	レベル1	レベル2	レベル3	合計
2024年6月30日現在				
財政状態計算書において公正価値で計上する資産				
売買目的金融資産	4,071	324	1,045	5,440
強制的に公正価値で測定される金融資産	278	386	2,079	2,743
デリバティブ	44	20,868	65	20,977
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	15,715	190	128	16,033
売却目的固定資産	-	-	460	460
財政状態計算書において公正価値で計上する負債				
デリバティブ	66	14,801	87	14,954
売買目的金融負債	743	-	-	743
公正価値測定に指定した金融負債	260	2,420	-	2,680
単位：百万ユーロ				
2023年12月31日現在				
財政状態計算書において公正価値で計上する資産				
売買目的金融資産	2,971	35	741	3,747
強制的に公正価値で測定される金融資産 ¹	259	364	2,150	2,773
デリバティブ	35	21,900	57	21,992
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産 ¹	13,602	182	137	13,921
売却目的固定資産	-	-	270	270
財政状態計算書において公正価値で計上する負債				
デリバティブ	32	15,323	79	15,434
売買目的金融負債	475	-	-	475
公正価値測定に指定した金融負債	268	2,542	-	2,810

¹ 2023年度の比較数値において、259百万ユーロが「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」から「強制的に公正価値で測定される金融資産」に振り替えられている。

次表は、財政状態計算書に公正価値で計上している金融商品のうちレベル3に分類されたものの変動を示している。資本に含められるレベル3における公正価値の調整額は、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に係る再評価準備金として会計処理されている。

レベル3に分類された公正価値で測定される金融商品

単位：百万ユーロ	損益に含ま れている公		OCIに含まれ ている公正		購入額	売却額	決済額	2024年 6月30日 現在の残高
	2024年 1月1日 現在の残高	動	価値の変動	価値の変動				
資産								
売買目的金融資産	741	-	-	1,011	(707)	-	-	1,045
強制的に公正価値で測定される金融資産	2,150	89	-	126	(86)	(200)	-	2,079
デリバティブ	57	8	-	-	-	-	-	65
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	137	-	(9)	3	-	(3)	-	128
負債								
デリバティブ	79	8	-	-	-	-	-	87

単位：百万ユーロ	損益に含ま れている公		OCIに含まれ ている公正		購入額	売却額	決済額	2023年 12月31日 現在の残高
	2023年 1月1日 現在の残高	動	価値の変動	価値の変動				
資産								
売買目的金融資産	328	9	-	692	(38)	(250)	-	741
強制的に公正価値で測定される金融資産	1,961	143	-	250	(161)	(43)	-	2,150
デリバティブ	205	18	-	-	(5)	(161)	-	57
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	171	-	11	36	(77)	(4)	-	137
負債								
デリバティブ	235	4	-	-	-	(160)	-	79

レベル3に分類される資産および負債に関連して、損益計算書に認識された利益/(損失)合計額を下表に示す。

単位：百万ユーロ	報告期間末時点 で保有されてい る金融商品	報告期間末時点 でもはや保有さ れていない金融 商品	合計
2024年度上半期			
資産			
売買目的金融資産	-	-	-
強制的に公正価値で測定される金融資産	88	1	89
デリバティブ	8	-	8
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	-	-	-
負債			
デリバティブ	8	-	8
2023年度上半期			
資産			
売買目的金融資産	12	-	12
強制的に公正価値で測定される金融資産	37	(5)	32
デリバティブ	(28)	27	(1)
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	-	-	-
負債			
デリバティブ	(31)	36	5

レベル3の金融商品の評価に当たり、より有利な合理的仮定を用いた場合の損益計算書への潜在的な税引前影響額は214百万ユーロ(2023年度上半期：192百万ユーロ)であり、その他の包括利益への潜在的な税引前影響額は0百万ユーロ(2023年度上半期：0百万ユーロ)である。レベル3の金融商品の評価に当たり、より不利な合理的仮定を使用した場合の損益計算書への潜在的な税引前影響額はマイナス215百万ユーロ(2023年度上半期：マイナス191百万ユーロ)であり、その他の包括利益への潜在的な税引前影響額は0百万ユーロ(2023年度上半期：0百万ユーロ)である。

レベル3の公正価値で測定する金融資産には主にプライベート・エクイティ持分が含まれる。公正価値で測定するこれらレベル3の金融資産合計額は1,916百万ユーロ(2023年12月31日：1,998百万ユーロ)である。プライベート・エクイティ持分の評価に係る重要な観察不能なインプットはEBITDAに適用される倍率である。加重平均倍率は10.7倍(2023年12月31日：10.4倍)であり、その幅は倍率のマイナス1(不利な仮定)からプラス1(有利な仮定)である。

13. 関連当事者

財務上もしくは経営上の決定に関して、一方の当事者が他方の当事者に対する支配力を行使している場合、または他方の当事者に対する重大な影響力を有する場合、両者は関連当事者とみなされる。通常の業務において、ラボバンクは、関連当事者との間で、貸出、預金および外貨建取引など、様々な取引を行う。関連当事者間の取引には、関連会社、年金基金、共同支配企業、経営委員会および監督委員会との取引も含まれる。これらの取引は商取引上の条件のもと市場価格で行われている。2024年度上半期には、ラボバンクの当期中の財政状態または業績に重大な影響を与える関連当事者取引は発生しなかった。

14. 信用関連の偶発債務

信用関連の偶発債務は、ローン・コミットメント、金融保証、信用状、およびその他の貸出関連のオフバランスの金融商品を表している。信用関連の偶発債務は91十億ユーロ（2023年12月31日：87十億ユーロ）である。訴訟に関連する偶発債務は注記9「法的手続および仲裁手続」に開示されている。

15. 売却目的固定資産

売却目的固定資産は460百万ユーロ（2023年12月31日：270百万ユーロ）であり、2024年7月31日に完了したリース・セグメントのハンガリーにおける事業の売却116百万ユーロ（帳簿価額）が含まれている。

売却目的固定資産にはまた、国内リテール・バンキングおよび不動産開発の両セグメントにおける各種不動産100百万ユーロ、ならびにホールセール・アンド・ルーラル・セグメントにおける売却目的資産244百万ユーロが含まれている。これらの帳簿価額は、継続使用ではなく売却によって実現される見込みである。

16. 事業セグメント

ラボバンクが会計報告に使用している事業セグメントは、経営上の視点から定義されたものである。これは、各セグメントがラボバンクの戦略的経営の一部としてレビューされ、異なるリスクおよびリターンを伴う事業に関する意思決定のために使用されることを意味している。

ラボバンクは、国内リテール・バンキング（以下「DRB」という）、ホールセール・アンド・ルーラル（W&R）、リース、不動産開発、およびその他のセグメントという5つの主要事業セグメントを設けている。

- ・ 国内リテール・バンキングは、主として地方ラボバンク、オプフィオン、ヴィスタ・ヒポテーケンおよびフレオが行う事業から成っている。
- ・ ホールセール・アンド・ルーラル（W&R）は、オランダの卸売事業を含んでいる。またオランダ国外では、食品・農業セクターに重点を置いている。このセグメントは企業向けバンキング事業を行うと共に、マーケット、マージャーズ・アンド・アクイジション、コーポレート・ファイナンス・オリジネーション、コア・レンディング、プロジェクト・ファイナンス、トレード・アンド・コモディティ・ファイナンス、バリューチェーン・ファイナンス、ラボ・インベストメンツなどのグローバルな業務を行う部門も統括している。またこのセグメントには、ラボバンクブランドのもとでの国際ルーラル事業も含まれている。
- ・ リース・セグメントの中では、DLLがリース事業に責任を負い、幅広いリース商品を提供している。DLLは、アセット・ファイナンス関連の商品の販売において世界中の製造企業、ベンダーおよび販売企業を支援している。
- ・ 不動産開発は、主にBPDの事業で構成されている。中核事業は居住用不動産の開発である。
- ・ ラボバンク内のその他のセグメントには様々なサブセグメントが含まれるが、いずれも独立セグメントとして掲記すべきものはない。この事業セグメントは主に関連会社（特にアフメアB.V.）への投資、トレジャーリーおよびラボバンク・グループ・オーガニゼーションの財務実績で構成される。

ラボバンクの収益合計の10%超を占める顧客はいない。様々な事業セグメント間の取引は、通常の商取引条件に基づいて行われる。事業セグメント間には、事業活動によるものを除き、他の重要な包括利益は存在しない。セグメントに使用されている財務報告の原則は、注記「作成基準」に記載されたものと同じである。経営陣は、主に純受取利息に依拠して各セグメントの業績を評価し、セグメントに配分するリソースに関する意思決定を下すため、セグメントの受取利息は支払利息控除後の金額で表示されている。

事業セグメント

単位：百万ユーロ	国内				不動産開発	その他の セグメント	連結効果	合計
	リテール・ バンキング	W&R	リース					
2024年度上半期								
純受取利息	4,034	1,408	707	(25)	3	1	6,128	
純受取手数料	872	245	54	-	(4)	(7)	1,160	
その他収益	40	340	179	54	231	6	850	
収益	4,946	1,993	940	29	230	-	8,138	
人件費	1,731	791	366	54	58	4	3,004	
その他一般管理費	532	215	134	21	62	(49)	915	
減価償却費および償却費	41	50	12	4	2	46	155	
営業費用	2,304	1,056	512	79	122	1	4,074	
金融資産に係る減損費用繰入 / (戻入)	(137)	274	142	-	-	-	279	
規制上の賦課金	48	-	1	-	-	-	49	
税引前営業利益	2,731	663	285	(50)	108	(1)	3,736	
法人税	703	200	63	(20)	(28)	-	918	
純利益	2,028	463	222	(30)	136	(1)	2,818	
収益に対する費用の比率（規制上の賦課金を含む、単位：%） ¹	47.6	53.0	54.6	272.4	n/a	n/a	50.7	
金融資産に係る減損費用（民間セクター向け貸出金ポートフォリオの平均に対する比率、単位：ベースポイント） ²	(10)	44	63	n/a	n/a	n/a	13	
外部資産	274,607	159,142	48,501	4,197	135,194	-	621,641	
のれん	322	-	-	-	-	-	322	
民間セクター向け貸出金ポートフォリオ	271,526	127,666	43,814	119	-	-	443,125	

1 営業費用に規制上の賦課金を加算した金額を、収益で除した比率

2 年換算した金融資産に係る減損費用を、民間セクター向け貸出金ポートフォリオの6ヶ月間の平均値で除した比率

金融資産に係る減損引当金および信用関連の偶発債務

単位：百万ユーロ	国内				不動産開発	その他の セグメント	連結効果	合計
	リテール・ バンキング	W&R	リース					
2024年1月1日現在の残高								
当初認識および取得による増加	50	83	49	-	-	-	182	
認識中止による減少	(168)	(123)	(6)	-	-	-	(297)	
信用リスクの変動による変動	(5)	315	111	-	-	-	421	
当年度の不良債権の償却	(81)	(142)	(87)	-	-	-	(310)	
その他調整	(3)	4	(2)	1	-	-	-	
2024年6月30日現在の残高	1,226	1,355	503	1	-	-	3,085	
減損引当金：12ヶ月のECL	129	257	84	-	-	-	470	
減損引当金：全期間のECL - 非信用減損	340	144	147	-	-	-	631	
減損引当金：全期間のECL - 信用減損	757	954	272	1	-	-	1,984	
2024年6月30日現在の残高	1,226	1,355	503	1	-	-	3,085	

事業セグメント

単位：百万ユーロ	国内				その他の セグメント	連結効果	合計
	リテール・ バンキング	W&R	リース	不動産開発			
2023年度上半期							
純受取利息	4,048	1,393	645	(11)	(267)	(1)	5,807
純受取手数料	813	158	52	-	(11)	(5)	1,007
その他収益	32	360	189	68	215	4	868
収益	4,893	1,911	886	57	(63)	(2)	7,682
人件費	1,515	765	335	54	76	(3)	2,742
その他一般管理費	380	161	126	19	67	(49)	704
減価償却費および償却費	44	60	12	4	(2)	51	169
営業費用	1,939	986	473	77	141	(1)	3,615
金融資産に係る減損費用繰入 / (戻入)	(41)	328	55	-	(3)	-	339
規制上の賦課金	195	136	28	1	(33)	-	327
税引前営業利益	2,800	461	330	(21)	(168)	(1)	3,401
法人税	722	173	75	(1)	(97)	1	873
純利益	2,078	288	255	(20)	(71)	(2)	2,528
収益に対する費用の比率（規制上の賦課金を含む、単位：%） ¹	43.6	58.7	56.5	136.8	n/a	n/a	51.3
金融資産に係る減損費用（民間セクター向け貸出金ポートフォリオの平均に対する比率、単位：ベースポイント） ²	(3)	54	29	n/a	n/a	n/a	16
2023年12月31日現在							
外部資産	273,198	151,208	46,109	3,986	139,295	-	613,796
のれん	322	-	-	-	-	-	322
民間セクター向け貸出金ポートフォリオ	270,572	121,524	41,765	146	-	-	434,007

1 営業費用に規制上の賦課金を加算した金額を、収益で除した比率

2 年換算した金融資産に係る減損費用を、民間セクター向け貸出金ポートフォリオの6ヶ月間の平均値で除した比率

金融資産に係る減損引当金および信用関連の偶発債務

単位：百万ユーロ	国内				その他の セグメント	連結効果	合計
	リテール・ バンキング	W&R	リース	不動産開発			
2023年1月1日現在の残高							
2023年1月1日現在の残高	1,439	1,162	395	1	-	-	2,997
当初認識および取得による増加	85	144	80	-	-	-	309
認識中止による減少	(216)	(295)	(1)	-	-	-	(512)
信用リスクの変動による変動	244	528	134	-	-	-	906
当年度の不良債権の償却	(122)	(293)	(149)	-	-	-	(564)
その他調整	3	(28)	(21)	(1)	-	-	(47)
2023年12月31日現在の残高	1,433	1,218	438	-	-	-	3,089
減損引当金：12ヶ月のECL	125	200	96	-	-	-	421
減損引当金：全期間のECL - 非信用減損	507	107	119	-	-	-	733
減損引当金：全期間のECL - 信用減損	801	911	223	-	-	-	1,935
2023年12月31日現在の残高	1,433	1,218	438	-	-	-	3,089

17. 後発事象

開示すべき後発事象はなかった。

2【その他】

(1)後発事象

第3 3「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「(1)業績等の概要」の「最近の動向」を参照のこと。

(2)訴訟

第6 1「中間財務書類」の中間財務諸表に対する注記9「法的手続および仲裁手続」を参照のこと。

3【国際財務報告基準(IFRS)と日本における会計原則及び会計慣行の相違】

項目	国際財務報告基準(IFRS) (2024年6月30日現在のもの)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則) (2024年6月30日現在のもの)
(1) 表示が求められる会計期間 (IAS1.38, 38A)	財務諸表で報告されるすべての金額について、最低1会計期間分の比較情報を開示しなければならない。	前連結会計年度および当連結会計年度の財務諸表を併記する。
(2) 財政状態計算書(貸借対照表)と包括利益計算書(損益計算書)等の様式 (IAS1.10)	<p>下記の財務諸表1、2の作成を求めている。</p> <p>②A 連結財政状態計算書</p> <p>②B 連結純損益および包括利益計算書(1計算書方式)、または連結純損益計算書と連結包括利益計算書を別個に作成(2計算書方式) 3</p> <p>②C 連結持分変動計算書</p> <p>②D 連結キャッシュ・フロー計算書</p> <p>②E 会計方針および注記</p> <p>1 各計算書の名称については他のものを使用することも可。</p> <p>2 過去に遡って会計方針を適用(遡及適用)した場合、財務諸表項目の修正再表示を行った場合、および財務諸表項目の組替を行った場合には、上記財務諸表に加えて、開示される最も古い比較年度の期首財政状態計算書の作成も求められる。</p> <p>3 1計算書方式と2計算書方式のいずれでも可。</p>	<p>下記の財務諸表1の作成を求めている。</p> <p>②A 連結貸借対照表</p> <p>②B 連結損益計算書および包括利益計算書(1計算書方式)または連結損益計算書と連結包括利益計算書を別個に作成(2計算書方式) 2</p> <p>②C 連結株主資本等変動計算書</p> <p>②D 連結キャッシュ・フロー計算書</p> <p>②E 連結附属明細表</p> <p>1 会計方針を遡及適用した場合、財務諸表の修正再表示を行った場合、および財務諸表の組替を行った場合でも、IFRSが求めるような開示されるもっとも古い比較年度の期首貸借対照表の追加作成は不要。</p> <p>2 1計算書方式と2計算書方式のいずれでも可。</p>
(3) 特別(異常)損益の表示 (IAS1.87)	収益または費用のいかなる項目も、異常項目として、包括利益計算書もしくは損益計算書(表示されている場合)または注記のいずれにも表示してはならない。	特別損益に属するものはその内容を示す名称を付した科目をもって表示する。

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(6) 特別目的事業体 (SPE) およびストラクチャード・エンティティ (SE) (IFRS10.7)	投資者が支配を有すると判断されるストラクチャード・エンティティ (SE) についても連結対象に含める。	(連結会計基準第7-2項) (投資事業組合に関する実務上の取扱い) 一定の特別目的会社につき、一定の要件を満たす場合には、オリジネーターの子会社に該当しないものと推定する。 投資事業の場合、基本的には業務執行権限の有無により判断する。
(7) 共同支配の取決め (ジョイント・アレンジメント) (IFRS11.20, 24)	共同契約のうち、共同支配事業 (ジョイント・オペレーション) は、自らの資産、負債、収益および費用ならびに/または当事者に共通して発生したそれらに対する持分相当額を認識する方法により会計処理される。ジョイント・ベンチャーは、持分法により会計処理される。	共同支配投資企業は、共同支配企業に対する投資について、連結財務諸表上、持分法を適用する。
(8) のれんの当初認識と非支配株主持分の測定方法 (IFRS3.19, 32)	企業結合ごとに、以下のいずれかを選択できる。 1) 非支配持分も含めた被取得企業全体を公正価値で測定し、のれんは非支配持分に帰属する部分も含めて認識する方法 (全部のれんアプローチ)。 2) 非支配持分は、被取得企業の識別可能純資産の公正価値に対する比例持分相当額として測定し、のれんは取得企業の持分相当額についてのみ認識する方法 (購入のれんアプローチ)。	のれんとは、被取得企業または取得した事業の取得原価が、取得した資産および引き受けた負債に配分された純額を超過する額として算定される (購入のれんアプローチのみ)。 (連結会計基準第20項) 全面時価評価法により、子会社の資産および負債のすべてを支配獲得日の時価により評価する。 IFRSで選択できるような、非支配株主持分自体を支配獲得日の時価で評価する処理は認められていない。
(9) のれんの取扱い (IFRS3.B63(a), IAS36.88,90)	規則的な償却は行わず、減損の兆候が無くても毎期1回、さらに減損の兆候がある場合には追加で、減損テストの対象となる。	20年以内のその効果の及ぶ期間にわたって、定額法その他合理的な方法により償却する。ただし、のれんの金額に重要性が乏しい場合には、当該のれんが生じた事業年度の費用として処理することができる。 のれんに減損の兆候がある場合に減損損失を認識するかどうか判定する。
(10) 自己創設研究開発費 (IAS38.52-62)	研究費は発生した時点で費用として認識する。 開発費については、技術上の実行可能性や使用または売却するという企業の意図等、一定の要件がすべて立証可能な場合のみ、無形資産として認識する (満たさない場合には発生時に費用処理しなければならない)。 コンピュータ・ソフトウェアの研究開発費に関する個別の指針はない。	研究開発費は、すべて発生時に費用として処理しなければならない。 ソフトウェア制作費のうち、研究開発に該当する部分も研究開発費として費用処理する。

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(11) 借入費用の資産計上 (IAS23.5,8)	<p>適格資産とは、意図した使用または売却が可能になるまでに相当の期間を必要とする資産をいう。</p> <p>企業は、適格資産の取得、建設または製造に直接帰属する借入費用を当該資産の一部として資産化しなければならない。また、上記に該当しない借入費用を発生時に費用として認識しなければならない。</p>	<p>固定資産を自家建設した場合には、適正な原価計算基準に従って製造原価を計算し、これに基づいて取得原価を計算する。建設に要する借入資本の利子で稼働前の期間に属するものは、これを取得価額に算入することができる。</p>
(12) 有形固定資産解体および除却費用ならびに原状回復費用等 (IAS16.16(C), 18, IAS37.10, 14, 19, 45, 47, IFRIC1.3, 8)	<p>IAS第37号に従い、引当金の認識要件を満たす解体および除却費用ならびに原状回復費用等は、有形固定資産の取得原価に含める。IAS第37号の引当金には、法的債務および推定的債務が含まれる。</p> <p>有形固定資産が原価モデルで測定されており、引当金に係る割引率が事後的に変更された場合は、引当金を再測定し、変動額を有形固定資産の取得原価に加減する。</p> <p>引当金の割引に関する振戻しは、金融費用として費用計上する。</p> <p>日本基準にある敷金に関する例外処理は、認められない。</p>	<p>資産除去債務計上額を関連する有形固定資産の帳簿価額に加える。</p> <p>資産除去債務は、有形固定資産の除去に関して法令または契約で要求される法律上の義務およびそれに準ずるものを計上する。</p> <p>資産除去債務の割引率は負債計上時に決定し、その後の変更は行わない(ただし、将来CFの見積額が増加した場合は、その時点の割引率に変更し、減少した場合は負債計上時の割引率を用いる)。</p> <p>時の経過による資産除去債務の調整額は、損益計算書上、当該資産除去債務に関連する有形固定資産の減価償却費と同じ区分に含めて計上する。</p> <p>敷金が資産計上されている場合、簡便的に敷金の回収が見込めないと認められる金額を合理的に見積り、当期の負担に属する金額を費用に計上する方法によることができる。</p>
(13) 有形固定資産および無形資産の事後測定 (IAS16.29-31, IAS38.72, 75)	<p>原価モデルまたは再評価モデルのどちらかを会計方針として選択し、同一種類のすべての有形固定資産および無形資産に適用しなければならない。</p> <p>再評価モデルを選択した場合、帳簿価額が報告期間の期末日における公正価値と大きく相違しないよう、再評価を定期的実施しなければならない。</p>	<p>取得原価から減価償却累計額および減損損失累計額を控除した金額で測定する(再評価は認められていない)。</p>
(14) 投資不動産当初認識後の測定 (IAS40.30)	<p>原価モデルまたは公正価値モデルの選択が必要である。資産の存続期間にわたって選択したアプローチが変更される可能性は非常に低い。</p>	<p>(注記による開示だけであるため、特に明示された基準はなく)原価モデルのみ。</p>
(15) 投資不動産公正価値モデルでの測定 (IAS40.33, 35, 53A, 53B, 54)	<p>公正価値モデルを選択する企業は、一定の場合を除き、すべての投資不動産を公正価値で評価しなければならない。</p> <p>投資不動産の公正価値の変動は、発生した期の損益として処理される。</p> <p>建設中の投資不動産に関しても原則として同じ考え方であるが、実務を配慮した特別な取扱いが定められている。</p>	<p>該当する基準はない。</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(16) 減損プロセス - 減損の認識判定に 用いる数値 (IAS36.59)	1段階アプローチ 減損の兆候が存在する場合には、資産の帳簿価額がその回収可能価額を上回る場合に、その差額を減損損失として認識する。 回収可能価額は処分費用控除後の公正価値と使用価値のいずれか高い金額となる。	2段階アプローチ 減損の兆候が存在する場合には、最初に回収可能性テスト(資産の帳簿価額を、使用および最終的処分を通じて発生する割引前将来キャッシュ・フローの総額と比較する)を行う。その結果、資産の帳簿価額が割引前キャッシュ・フローの総額よりも大きいため、回収不能と判断された場合、資産の帳簿価額を回収可能価額(正味売却価額と使用価値のいずれか高い金額)まで減額するように減損損失を認識する。
(17) 減損損失の戻 入れ (IAS36.110, 117, 124)	のれんに関し、その戻入れは禁止されているが、他の資産については、毎年、減損の兆候について検討しなければならない。戻入れが必要な場合は、過年度に減損がなかったとした場合の(償却または減価償却控除後の)帳簿価額を上限として、減損損失を戻し入れる。	あらゆる資産について禁止される。

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(18) リース借手の会計処理 当初測定 (IFRS 16.6,8,23,24, 26)	<p>「使用権」資産および対応する金融負債は財政状態計算書に認識される。使用権資産および対応するリース負債は、リース期間にわたり未だ支払われていないリース料の現在価値に相当する金額で測定される。</p> <p>短期リース 短期リースはリース期間が12ヶ月以内のリースと定義されている。借手は、短期リースについて認識の免除を選択することができる。この場合、リース料はリース期間にわたり定額法、または借手の便益のパターンをより適切に表す他の規則的な基礎のいずれかで費用として認識される。この選択は、使用権に関連する原資産のクラスごとに行わなければならない。</p> <p>原資産が少額であるリース 借手は、原資産が少額であるリースについて認識の免除を選択することができる。この場合、リース料はリース期間にわたり定額法、または借手の便益のパターンをより適切に表す他の規則的な基礎のいずれかで費用として認識される。</p>	<p>リース取引はオペレーティング・リースおよびファイナンス・リースに分類される。ファイナンス・リースは解約不能かつフルペイアウトの要件を充足するリース取引をいい、以下の判定基準が用いられる。</p> <p>²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ リース期間にわたる解約不能のリース料総額の現在価値が、見積現金購入価額の概ね90%以上</p> <p>²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ 解約不能のリース期間が、当該リース物件の経済的耐用年数の概ね75%以上</p> <p>ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行う。オペレーティング・リース取引は、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行う。</p> <p>リース資産およびリース債務の価額は以下のとおり。</p> <p>貸手の購入価額が明らかな場合 所有権移転：貸手の購入価額 所有権移転外：貸手の購入価額、または、リース料総額（残価保証額を含む）の割引現在価値のいずれか低い金額</p> <p>貸手の購入金額が不明の場合 リース料総額（所有権移転の場合は割安購入選択権の行使価額を含む）の割引現在価値または、借手の見積現金購入価額のいずれか低い金額</p> <p>ただし、以下のいずれかを満たす場合、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行うことができる。</p> <p>²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ 重要性が乏しい減価償却資産で、購入時に費用処理する方法が採用され、リース料総額が当該基準額以下のリース取引</p> <p>²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ リース期間が1年以内のリース取引</p> <p>²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ ²⁵/₂₅ （所有権移転外のみ）事業内容に照らして重要性の乏しい、契約1件当たりのリース料総額が300万円以下のリース取引</p>
(19) リース借手の会計処理 減価償却方法 (IFRS 16.31)	借手は、使用権資産を減価償却する際にIAS第16号「有形固定資産」の減価償却の要求事項を適用しなければならない。	<p>所有権移転外ファイナンス・リースについては、企業の実態に応じたものを選択適用する。自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一である必要はない。</p> <p>所有権移転ファイナンス・リースについては、自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を適用する。</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(20) リース借手の会計処理償却期間 (IFRS 16.32)	リース開始日から使用権資産の耐用年数の終了時までの期間と、リース開始日からリース期間の終了時までの期間のいずれか短い期間を償却期間とする。 ただし、リース期間の終了時に所有権が移転する場合または購入オプションの行使が使用権資産の取得原価に反映されている場合(つまり、購入オプションの行使が合理的に確実である場合)には、リース開始日から原資産の耐用年数の終了時までの期間を償却期間とする。	所有権移転外ファイナンス・リースの償却期間は、リース期間(再リース期間をリース期間に含めている場合は、再リース期間を含む年数)である。 所有権移転ファイナンス・リースの償却期間は、リース資産の経済的耐用年数である。
(21) リース貸手の会計処理分類 (IFRS 16.61-65)	リースは、原資産の所有に伴うリスクと経済価値のほとんどすべてを移転する場合には、ファイナンス・リースに分類される。それ以外の場合にはオペレーティング・リースに分類される。数値基準はない。	リースは、所有に伴うリスクと経済価値のほとんどすべてが借手に移転する場合には、ファイナンス・リースに分類される。ファイナンス・リースの分類には数値基準がある。上記(18)を参照のこと。
(22) リース貸手の会計処理ファイナンス・リースの会計処理 (IFRS 16.67, 付録 A)	開始日において、貸手はファイナンス・リース債権を正味リース投資未回収額に等しい金額で認識しなければならない。正味リース投資未回収額は、リース料と無保証残存価値をリースの計算利子率で割り引いた現在価値である。	ファイナンス・リースの貸手は、リース開始日にリース債権(リース投資資産)を認識する。利息相当額は、次のいずれかの方法を継続的に適用して各期へ配分される。 (1) リース取引開始日に売上高と売上原価を計上 (2) リース料受取時に売上高と売上原価を計上 (3) 売上高を計上せずに利息相当額を各期へ配分 各期における利息相当額は、いずれの方法を採用しても、同額となる。
(23) リース貸手の会計処理オペレーティング・リースの会計処理 (IFRS 16.81)	リース料は定額法で、または他の規則的な基礎の方が原資産の使用による便益が減少するパターンをより適切に表す場合には当該基礎を適用して、収益として認識される。	リース料はリース期間にわたり収益として認識される。

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(24) 金融商品の当初測定 (初日の利得/損失)	<p>通常は取引価格が金融商品の当初認識日における公正価値の最善の証拠とされる。</p> <p>ただし、金融商品の当初認識時の公正価値が取引価格と異なると判断される場合、その当初認識時の公正価値について、同一の資産または負債の活発な市場における相場価格の証拠があるとき、または観察可能な市場からのデータのみを用いた評価技法に基づいているときには、当初認識時の公正価値と取引価格との差額は初日の利得または損失として認識する。</p> <p>これに対して、上記条件を満たさない評価技法に基づく当初認識時の公正価値が取引価格と異なる場合には、当初認識時の公正価値と取引価格との差額は初日の利得または損失として認識しない。(IFRS9.B5.1.2A、B5.2.2A)</p>	<p>時価と取引価格が異なる場合、差額は取引の実態に応じて処理するものとされ、具体的な取扱いは明記されていない。(金融商品会計に関する実務指針 243)</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(25) 金融資産の分類	<p>25B A 負債性金融商品に対する投資</p> <p>負債性金融商品に対する投資は、事業モデルと契約上のキャッシュ・フロー特性に基づいて以下の3つの測定区分に分類される。</p> <p>(1) 償却原価：契約上のキャッシュ・フローを回収するために金融資産を保有することを目的とする事業モデルの中で金融資産が保有されており、かつ、対象となる金融資産の所定の日に生じる契約上のキャッシュ・フローが元本と利息の支払いのみ（SPPI）からなる場合</p> <p>(2) その他の包括利益を通じて公正価値（FVOCI）：契約上のキャッシュ・フローの回収および売却の両方により目的が達成される事業モデルの中で金融資産が保有されており、対象となる金融資産の所定の日に生じる契約上のキャッシュ・フローがSPPIからなる場合</p> <p>(3) 純利益を通じて公正価値（FVPL）：金融資産が上記のいずれにも該当しない場合</p> <p>25B A 資本性金融商品に対する投資</p> <p>資本性金融商品に対する投資は純損益を通じて公正価値で測定される。しかし、当初認識時に、売買目的で保有されていない資本性金融商品の公正価値の変動を、その他の包括利益に表示するという取消不能な選択をすることができる（OCIオプション）。その他の包括利益に表示された金額を事後的に純損益に振り替えてはならない。しかし、企業が利得または損失の累計額を資本の中で振り替えることはできる。</p> <p>（IFRS 9.4.1.1, 4.1.2, 4.1.2A, 4.1.3, 4.1.4, 5.7.5, B5.7.1, B5.7.1A）</p>	<p>金融資産は、原則として法的形態をベースに、有価証券、債権、金銭の信託、デリバティブなどに分類して規定が定められている。さらに、有価証券については、売買目的有価証券、満期保有目的の債券、子会社および関連会社株式、その他有価証券に分類される。</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(26) 金融資産の認識の分類の変更	<p>企業は、金融資産の管理に関する事業モデルを変更した場合に、かつその場合にのみ、影響を受けるすべての金融資産を分類変更しなければならない。</p> <p>金融資産を分類変更する場合には、企業は分類変更日から将来に向かって分類変更を適用しなければならない。</p> <p>(IFRS 9.4.4.1, 5.6.1)</p>	<p>原則として、有価証券の保有目的区分は当初の意図に基づくものであり、正当な理由がなく変更することはできない。</p> <p>満期保有目的の債券からの再分類を行った場合には、その後2事業年度内の満期保有目的の債券への分類を禁止する規定がある。</p> <p>なお、資金運用方針の変更または法令もしくは基準などの改正もしくは適用に伴い、有価証券のトレーディング取引を行わないこととした場合には、すべての売買目的有価証券をその他有価証券に振り替えることができる。</p> <p>逆に、有価証券のトレーディング取引を開始することとした場合、または有価証券の売買を頻繁に繰り返したことが客観的に認められる場合には、その他有価証券を売買目的有価証券に振り替えなければならない。</p>
(27) 金融資産の認識の中止 (IFRS 9)	<p>リスク経済価値アプローチに基づき、金融資産の認識を中止する。</p> <p>金融資産の所有に係るリスクと経済価値のほとんどすべてを移転したわけでも、ほとんどすべてを保持しているわけでもない場合は、「支配」の有無を検討する。引き続き支配を保持している場合は、継続的関与アプローチに基づき認識を継続する。</p>	<p>財務構成要素アプローチに基づき、金融資産の消滅を認識する。</p>
(28) 公正価値オプション	<p>25 6 A 金融資産</p> <p>IFRS第9号では、測定または認識の不整合(「会計上のミスマッチ」と呼ばれることがある。)を除去または大幅に低減する場合にのみ当初認識時において金融資産を純損益を通じて公正価値で測定するものとして取消不能の指定をすること(公正価値オプション)が認められる。</p> <p>25 6 A 非金融資産</p> <p>非金融資産にデリバティブが組込まれている場合に公正価値オプションを適用できる(ただし、組込デリバティブがキャッシュ・フローの大幅な変更をもたらさない場合、または、類似の混合金融商品が最初に検討される際に組込デリバティブの分離が禁じられることがほとんど分析なしに明らかな場合を除く)。</p> <p>(IFRS 9.4.1.5, 4.3.5)</p>	<p>公正価値オプションの概念は存在しない。</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(29) 測定	<p>企業は、当初認識時に金融資産を公正価値で測定し、損益を通じて公正価値で測定されない金融資産の場合は、金融資産の取得に直接起因する取引コストを加算する。組込デリバティブを伴う金融資産は、そのキャッシュ・フローが元本と利息の支払いのみで構成されているか否かの判断時に全体的に検討される。デリバティブは、公正価値で当初認識され、その後も損益を通じて公正価値で測定される。</p> <p>(IFRS 9.5.1.1)</p> <p>負債性金融商品</p> <p>償却原価 (AC) これらの金融資産は、償却原価で測定され、これらの金融資産からの受取利息は実効金利法を使用して純受取利息として認識される。認識の中止から利益または損失が発生した場合、直接損益に認識される。(IFRS 9.5.4.1, 5.7.2)</p> <p>その他の包括利益を通じた公正価値 (FVOCI) これらの負債性金融商品は、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される。その帳簿価額の変動はOCIを通じて計上されるが、減損損益、受取利息および為替換算損益は損益に認識される。当該金融資産の認識が中止された場合、それまでOCIに認識されていた累積損益は資本から損益に再分類される。これらの金融資産からの受取利息は実効金利法を使用して純受取利息として認識される。(IFRS 9.5.7.10)</p> <p>損益を通じた公正価値 (FVPL) 当初認識後にFVPLで測定される負債性金融商品に係る利益または損失は、これが発生した期間における損益を通じて公正価値で認識される。(IFRS 9.5.7.1)</p>	<p>売買目的有価証券は時価で測定され、時価の変動は損益に認識される。</p> <p>なお、時価とは、算定日において市場参加者間で秩序ある取引が行われると想定した場合の、当該取引における資産の売却によって受け取る価格または負債の移転のために支払う価格をいう。</p> <p>満期保有目的の債券は償却原価で測定され、原則として利息法によるものとするが、継続適用を条件として、簡便法である定額法を採用することができる。</p> <p>その他有価証券は、時価で測定する。時価の変動額(評価差額)は、a)純資産の部に計上され、売却、減損あるいは回収時に損益計算書へ計上される、もしくは(継続適用を条件に)b)個々の有価証券について、時価が取得原価を上回る場合には純資産の部に計上し、下回る場合には損益計算書に計上する。</p> <p>債権は償却原価で測定され、原則として利息法によるものとするが、契約上、元金の支払いが弁済期限に一括して行われる場合または規則的に行われる場合に、定額法を採用することができる。</p> <p>非上場株式は市場価格のない株式等として取り扱われ、取得原価で測定される。市場価格のない株式等については、株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額(保有株式数に、一株あたり純資産を乗じて計算される)が著しく低下したときに、減損損失が認識される。</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
	<p>資本性金融商品</p> <p>企業は、当初認識後にすべての資本性金融商品を公正価値で測定しなければならない。株式投資に係る公正価値損益をOCIに表示することを選択した場合、当該商品の認識を中止した後に事後的に公正価値損益を損益に再分類することはない。</p> <p>損益を通じて公正価値で測定する金融資産の公正価値の変動は、損益計算書に認識される。</p> <p>(IFRS 9.5.2.1, 9.5.7.1, B5.2.3, B5.7.1)</p>	
(30) 外貨建金融資産	<p>企業は、IAS第21号を、IAS第21号に従った貨幣性項目であり、かつ、外貨で表示されている金融資産および金融負債に適用する。IAS第21号は、貨幣性資産および貨幣性負債についての為替の利得および損失を純損益に認識することを求めている。</p> <p>例外は、キャッシュ・フロー・ヘッジ、純投資のヘッジまたはOCIオプションに従って公正価値の変動をその他の包括利益に表示することを企業が選択した資本性金融商品の公正価値ヘッジのいずれかにおいてヘッジ手段として指定されている貨幣性項目である。</p> <p>(IFRS 9.B5.7.2)</p>	<p>外貨建その他有価証券の評価差額に関して、取得原価または償却原価に係る換算差額も評価差額と同様に処理する。</p> <p>すなわち、外貨建の売買目的有価証券および満期保有目的の債券の換算差額は損益計算書で認識され、外貨建のその他有価証券の換算差額は</p> <p>a) 純資産の部に計上され、売却、減損あるいは回収時に損益計算書へ計上される、もしくはb) 個々の有価証券について、時価が取得原価を上回る場合には純資産の部に計上し、下回る場合には損益計算書に計上される。</p> <p>上記に加え、外貨建債券については、外国通貨による時価の変動に係る換算差額を評価差額とし、それ以外の差額については為替差損益として処理することもできる。</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(31) 減損 適用範囲	<p>減損（損失評価引当金）の対象となる金融商品は次のとおり。</p> <p>²⁵_{BA} 償却原価で測定する金融資産 (IFRS 9.4.1.2)</p> <p>²⁵_{BA} FVOCIで測定される金融資産 (IFRS 9.4.1.2A)</p> <p>²⁵_{BA} IFRS16「リース」に従って会計処理されるリース債権</p> <p>²⁵_{BA} IFRS15「顧客との契約から生じる収益」に従って認識および測定される契約資産</p> <p>²⁵_{BA} ローン・コミットメント (IFRS 9.2.1(g), 4.2.1(d)) (*)</p> <p>²⁵_{BA} 金融保証契約 (IFRS 9.4.2.1(c)) (*)</p> <p>* 純損益を通じて公正価値で測定するものは含まない。 (IFRS 9.5.5.1)</p> <p>なお、FVPLで測定される金融資産およびOCIオプションを選択した資本性金融商品には減損（損失評価引当金）の要求事項は適用されない。</p>	<p>貸倒引当金の対象となる金融商品は、法的形式が債権であるもの（売掛金、受取手形、売掛金、貸付金、リース債権等）である。</p> <p>当座貸越契約および貸出コミットメントは金融商品会計基準の対象であるが、会計処理の定めはない。貸手は、未使用のコミットメント残高を注記する。</p> <p>債務保証契約は、引当金の要件に該当する場合には引当金を計上し、それ以外の場合は債務保証の金額を注記する。</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(32) 減損 予想信用損失の測定 一般的なアプローチ	<p>損失評価引当金は、金融商品の「信用リスクが当初認識時以降に著しく増大」しているかどうかを判断し、判断結果に応じて測定する。</p> <p>(1) 信用リスクが当初認識時以降に著しく増大していない金融商品(「ステージ1」):「12ヶ月の予想信用損失」と同額で損失評価引当金を測定 12ヶ月の予想信用損失とは、全期間の予想信用損失のうち、ある金融商品について報告日後12ヶ月以内に生じ得る「債務不履行」事象から生じる予想信用損失を表す部分をいう。</p> <p>(2) 信用リスクが当初認識時以降に著しく増大している金融商品(「ステージ2」、「ステージ3」):「全期間の予想信用損失」と同額で損失評価引当金を測定 全期間の予想信用損失とは、当該金融商品の存続期間にわたるすべての生じ得る「債務不履行」事象から生じる「予想信用損失」をいう。 (IFRS 9.5.5.3, 5.5.5, 付録A)</p>	<p>貸倒引当金の算定は、以下の(1)から(3)の区分に応じて測定する。</p> <p>(1) 一般債権 過去の貸倒実績率等合理的な基準により貸倒見積高を算定する。貸倒損失の過去のデータから貸倒実績率を算定する期間は、一般には、債権の平均回収期間が妥当とされている。</p> <p>(2) 貸倒懸念債権 以下のいずれかの方法による。 <small>25</small> <small>26</small> <small>27</small> <small>28</small> <small>29</small> <small>30</small> <small>31</small> <small>32</small> <small>33</small> <small>34</small> <small>35</small> <small>36</small> <small>37</small> <small>38</small> <small>39</small> <small>40</small> <small>41</small> <small>42</small> <small>43</small> <small>44</small> <small>45</small> <small>46</small> <small>47</small> <small>48</small> <small>49</small> <small>50</small> <small>51</small> <small>52</small> <small>53</small> <small>54</small> <small>55</small> <small>56</small> <small>57</small> <small>58</small> <small>59</small> <small>60</small> <small>61</small> <small>62</small> <small>63</small> <small>64</small> <small>65</small> <small>66</small> <small>67</small> <small>68</small> <small>69</small> <small>70</small> <small>71</small> <small>72</small> <small>73</small> <small>74</small> <small>75</small> <small>76</small> <small>77</small> <small>78</small> <small>79</small> <small>80</small> <small>81</small> <small>82</small> <small>83</small> <small>84</small> <small>85</small> <small>86</small> <small>87</small> <small>88</small> <small>89</small> <small>90</small> <small>91</small> <small>92</small> <small>93</small> <small>94</small> <small>95</small> <small>96</small> <small>97</small> <small>98</small> <small>99</small> <small>100</small> <small>101</small> <small>102</small> <small>103</small> <small>104</small> <small>105</small> <small>106</small> <small>107</small> <small>108</small> <small>109</small> <small>110</small> <small>111</small> <small>112</small> <small>113</small> <small>114</small> <small>115</small> <small>116</small> <small>117</small> <small>118</small> <small>119</small> <small>120</small> <small>121</small> <small>122</small> <small>123</small> <small>124</small> <small>125</small> <small>126</small> <small>127</small> <small>128</small> <small>129</small> <small>130</small> <small>131</small> <small>132</small> <small>133</small> <small>134</small> <small>135</small> <small>136</small> <small>137</small> <small>138</small> <small>139</small> <small>140</small> <small>141</small> <small>142</small> <small>143</small> <small>144</small> <small>145</small> <small>146</small> <small>147</small> <small>148</small> <small>149</small> <small>150</small> <small>151</small> <small>152</small> <small>153</small> <small>154</small> <small>155</small> <small>156</small> <small>157</small> <small>158</small> <small>159</small> <small>160</small> <small>161</small> <small>162</small> <small>163</small> <small>164</small> <small>165</small> <small>166</small> <small>167</small> <small>168</small> <small>169</small> <small>170</small> <small>171</small> <small>172</small> <small>173</small> <small>174</small> <small>175</small> <small>176</small> <small>177</small> <small>178</small> <small>179</small> <small>180</small> <small>181</small> <small>182</small> <small>183</small> <small>184</small> <small>185</small> <small>186</small> <small>187</small> <small>188</small> <small>189</small> <small>190</small> <small>191</small> <small>192</small> <small>193</small> <small>194</small> <small>195</small> <small>196</small> <small>197</small> <small>198</small> <small>199</small> <small>200</small> <small>201</small> <small>202</small> <small>203</small> <small>204</small> <small>205</small> <small>206</small> <small>207</small> <small>208</small> <small>209</small> <small>210</small> <small>211</small> <small>212</small> <small>213</small> <small>214</small> <small>215</small> <small>216</small> <small>217</small> <small>218</small> <small>219</small> <small>220</small> <small>221</small> <small>222</small> <small>223</small> <small>224</small> <small>225</small> <small>226</small> <small>227</small> <small>228</small> <small>229</small> <small>230</small> <small>231</small> <small>232</small> <small>233</small> <small>234</small> <small>235</small> <small>236</small> <small>237</small> <small>238</small> <small>239</small> <small>240</small> <small>241</small> <small>242</small> <small>243</small> <small>244</small> <small>245</small> <small>246</small> <small>247</small> <small>248</small> <small>249</small> <small>250</small> <small>251</small> <small>252</small> <small>253</small> <small>254</small> <small>255</small> <small>256</small> <small>257</small> <small>258</small> <small>259</small> <small>260</small> <small>261</small> <small>262</small> <small>263</small> <small>264</small> <small>265</small> <small>266</small> <small>267</small> <small>268</small> <small>269</small> <small>270</small> <small>271</small> <small>272</small> <small>273</small> <small>274</small> <small>275</small> <small>276</small> <small>277</small> <small>278</small> <small>279</small> <small>280</small> <small>281</small> <small>282</small> <small>283</small> <small>284</small> <small>285</small> <small>286</small> <small>287</small> <small>288</small> <small>289</small> <small>290</small> <small>291</small> <small>292</small> <small>293</small> <small>294</small> <small>295</small> <small>296</small> <small>297</small> <small>298</small> <small>299</small> <small>300</small> <small>301</small> <small>302</small> <small>303</small> <small>304</small> <small>305</small> <small>306</small> <small>307</small> <small>308</small> <small>309</small> <small>310</small> <small>311</small> <small>312</small> <small>313</small> <small>314</small> <small>315</small> <small>316</small> <small>317</small> <small>318</small> <small>319</small> <small>320</small> <small>321</small> <small>322</small> <small>323</small> <small>324</small> <small>325</small> <small>326</small> <small>327</small> <small>328</small> <small>329</small> <small>330</small> <small>331</small> <small>332</small> <small>333</small> <small>334</small> <small>335</small> <small>336</small> <small>337</small> <small>338</small> <small>339</small> <small>340</small> <small>341</small> <small>342</small> <small>343</small> <small>344</small> <small>345</small> <small>346</small> <small>347</small> <small>348</small> <small>349</small> <small>350</small> <small>351</small> <small>352</small> <small>353</small> <small>354</small> <small>355</small> <small>356</small> <small>357</small> <small>358</small> <small>359</small> <small>360</small> <small>361</small> <small>362</small> <small>363</small> <small>364</small> <small>365</small> <small>366</small> <small>367</small> <small>368</small> <small>369</small> <small>370</small> <small>371</small> <small>372</small> <small>373</small> <small>374</small> <small>375</small> <small>376</small> <small>377</small> <small>378</small> <small>379</small> <small>380</small> <small>381</small> <small>382</small> <small>383</small> <small>384</small> <small>385</small> <small>386</small> <small>387</small> <small>388</small> <small>389</small> <small>390</small> <small>391</small> <small>392</small> <small>393</small> <small>394</small> <small>395</small> <small>396</small> <small>397</small> <small>398</small> <small>399</small> <small>400</small> <small>401</small> <small>402</small> <small>403</small> <small>404</small> <small>405</small> <small>406</small> <small>407</small> <small>408</small> <small>409</small> <small>410</small> <small>411</small> <small>412</small> <small>413</small> <small>414</small> <small>415</small> <small>416</small> <small>417</small> <small>418</small> <small>419</small> <small>420</small> <small>421</small> <small>422</small> <small>423</small> <small>424</small> <small>425</small> <small>426</small> <small>427</small> <small>428</small> <small>429</small> <small>430</small> <small>431</small> <small>432</small> <small>433</small> <small>434</small> <small>435</small> <small>436</small> <small>437</small> <small>438</small> <small>439</small> <small>440</small> <small>441</small> <small>442</small> <small>443</small> <small>444</small> <small>445</small> <small>446</small> <small>447</small> <small>448</small> <small>449</small> <small>450</small> <small>451</small> <small>452</small> <small>453</small> <small>454</small> <small>455</small> <small>456</small> <small>457</small> <small>458</small> <small>459</small> <small>460</small> <small>461</small> <small>462</small> <small>463</small> <small>464</small> <small>465</small> <small>466</small> <small>467</small> <small>468</small> <small>469</small> <small>470</small> <small>471</small> <small>472</small> <small>473</small> <small>474</small> <small>475</small> <small>476</small> <small>477</small> <small>478</small> <small>479</small> <small>480</small> <small>481</small> <small>482</small> <small>483</small> <small>484</small> <small>485</small> <small>486</small> <small>487</small> <small>488</small> <small>489</small> <small>490</small> <small>491</small> <small>492</small> <small>493</small> <small>494</small> <small>495</small> <small>496</small> <small>497</small> <small>498</small> <small>499</small> <small>500</small> <small>501</small> <small>502</small> <small>503</small> <small>504</small> <small>505</small> <small>506</small> <small>507</small> <small>508</small> <small>509</small> <small>510</small> <small>511</small> <small>512</small> <small>513</small> <small>514</small> <small>515</small> <small>516</small> <small>517</small> <small>518</small> <small>519</small> <small>520</small> <small>521</small> <small>522</small> <small>523</small> <small>524</small> <small>525</small> <small>526</small> <small>527</small> <small>528</small> <small>529</small> <small>530</small> <small>531</small> <small>532</small> <small>533</small> <small>534</small> <small>535</small> <small>536</small> <small>537</small> <small>538</small> <small>539</small> <small>540</small> <small>541</small> <small>542</small> <small>543</small> <small>544</small> <small>545</small> <small>546</small> <small>547</small> <small>548</small> <small>549</small> <small>550</small> <small>551</small> <small>552</small> <small>553</small> <small>554</small> <small>555</small> <small>556</small> <small>557</small> <small>558</small> <small>559</small> <small>560</small> <small>561</small> <small>562</small> <small>563</small> <small>564</small> <small>565</small> <small>566</small> <small>567</small> <small>568</small> <small>569</small> <small>570</small> <small>571</small> <small>572</small> <small>573</small> <small>574</small> <small>575</small> <small>576</small> <small>577</small> <small>578</small> <small>579</small> <small>580</small> <small>581</small> <small>582</small> <small>583</small> <small>584</small> <small>585</small> <small>586</small> <small>587</small> <small>588</small> <small>589</small> <small>590</small> <small>591</small> <small>592</small> <small>593</small> <small>594</small> <small>595</small> <small>596</small> <small>597</small> <small>598</small> <small>599</small> <small>600</small> <small>601</small> <small>602</small> <small>603</small> <small>604</small> <small>605</small> <small>606</small> <small>607</small> <small>608</small> <small>609</small> <small>610</small> <small>611</small> <small>612</small> <small>613</small> <small>614</small> <small>615</small> <small>616</small> <small>617</small> <small>618</small> <small>619</small> <small>620</small> <small>621</small> <small>622</small> <small>623</small> <small>624</small> <small>625</small> <small>626</small> <small>627</small> <small>628</small> <small>629</small> <small>630</small> <small>631</small> <small>632</small> <small>633</small> <small>634</small> <small>635</small> <small>636</small> <small>637</small> <small>638</small> <small>639</small> <small>640</small> <small>641</small> <small>642</small> <small>643</small> <small>644</small> <small>645</small> <small>646</small> <small>647</small> <small>648</small> <small>649</small> <small>650</small> <small>651</small> <small>652</small> <small>653</small> <small>654</small> <small>655</small> <small>656</small> <small>657</small> <small>658</small> <small>659</small> <small>660</small> <small>661</small> <small>662</small> <small>663</small> <small>664</small> <small>665</small> <small>666</small> <small>667</small> <small>668</small> <small>669</small> <small>670</small> <small>671</small> <small>672</small> <small>673</small> <small>674</small> <small>675</small> <small>676</small> <small>677</small> <small>678</small> <small>679</small> <small>680</small> <small>681</small> <small>682</small> <small>683</small> <small>684</small> <small>685</small> <small>686</small> <small>687</small> <small>688</small> <small>689</small> <small>690</small> <small>691</small> <small>692</small> <small>693</small> <small>694</small> <small>695</small> <small>696</small> <small>697</small> <small>698</small> <small>699</small> <small>700</small> <small>701</small> <small>702</small> <small>703</small> <small>704</small> <small>705</small> <small>706</small> <small>707</small> <small>708</small> <small>709</small> <small>710</small> <small>711</small> <small>712</small> <small>713</small> <small>714</small> <small>715</small> <small>716</small> <small>717</small> <small>718</small> <small>719</small> <small>720</small> <small>721</small> <small>722</small> <small>723</small> <small>724</small> <small>725</small> <small>726</small> <small>727</small> <small>728</small> <small>729</small> <small>730</small> <small>731</small> <small>732</small> <small>733</small> <small>734</small> <small>735</small> <small>736</small> <small>737</small> <small>738</small> <small>739</small> <small>740</small> <small>741</small> <small>742</small> <small>743</small> <small>744</small> <small>745</small> <small>746</small> <small>747</small> <small>748</small> <small>749</small> <small>750</small> <small>751</small> <small>752</small> <small>753</small> <small>754</small> <small>755</small> <small>756</small> <small>757</small> <small>758</small> <small>759</small> <small>760</small> <small>761</small> <small>762</small> <small>763</small> <small>764</small> <small>765</small> <small>766</small> <small>767</small> <small>768</small> <small>769</small> <small>770</small> <small>771</small> <small>772</small> <small>773</small> <small>774</small> <small>775</small> <small>776</small> <small>777</small> <small>778</small> <small>779</small> <small>780</small> <small>781</small> <small>782</small> <small>783</small> <small>784</small> <small>785</small> <small>786</small> <small>787</small> <small>788</small> <small>789</small> <small>790</small> <small>791</small> <small>792</small> <small>793</small> <small>794</small> <small>795</small> <small>796</small> <small>797</small> <small>798</small> <small>799</small> <small>800</small> <small>801</small> <small>802</small> <small>803</small> <small>804</small> <small>805</small> <small>806</small> <small>807</small> <small>808</small> <small>809</small> <small>810</small> <small>811</small> <small>812</small> <small>813</small> <small>814</small> <small>815</small> <small>816</small> <small>817</small> <small>818</small> <small>819</small> <small>820</small> <small>821</small> <small>822</small> <small>823</small> <small>824</small> <small>825</small> <small>826</small> <small>827</small> <small>828</small> <small>829</small> <small>830</small> <small>831</small> <small>832</small> <small>833</small> <small>834</small> <small>835</small> <small>836</small> <small>837</small> <small>838</small> <small>839</small> <small>840</small> <small>841</small> <small>842</small> <small>843</small> <small>844</small> <small>845</small> <small>846</small> <small>847</small> <small>848</small> <small>849</small> <small>850</small> <small>851</small> <small>852</small> <small>853</small> <small>854</small> <small>855</small> <small>856</small> <small>857</small> <small>858</small> <small>859</small> <small>860</small> <small>861</small> <small>862</small> <small>863</small> <small>864</small> <small>865</small> <small>866</small> <small>867</small> <small>868</small> <small>869</small> <small>870</small> <small>871</small> <small>872</small> <small>873</small> <small>874</small> <small>875</small> <small>876</small> <small>877</small> <small>878</small> <small>879</small> <small>880</small> <small>881</small> <small>882</small> <small>883</small> <small>884</small> <small>885</small> <small>886</small> <small>887</small> <small>888</small> <small>889</small> <small>890</small> <small>891</small> <small>892</small> <small>893</small> <small>894</small> <small>895</small> <small>896</small> <small>897</small> <small>898</small> <small>899</small> <small>900</small> <small>901</small> <small>902</small> <small>903</small> <small>904</small> <small>905</small> <small>906</small> <small>907</small> <small>908</small> <small>909</small> <small>910</small> <small>911</small> <small>912</small> <small>913</small> <small>914</small> <small>915</small> <small>916</small> <small>917</small> <small>918</small> <small>919</small> <small>920</small> <small>921</small> <small>922</small> <small>923</small> <small>924</small> <small>925</small> <small>926</small> <small>927</small> <small>928</small> <small>929</small> <small>930</small> <small>931</small> <small>932</small> <small>933</small> <small>934</small> <small>935</small> <small>936</small> <small>937</small> <small>938</small> <small>939</small> <small>940</small> <small>941</small> <small>942</small> <small>943</small> <small>944</small> <small>945</small> <small>946</small> <small>947</small> <small>948</small> <small>949</small> <small>950</small> <small>951</small> <small>952</small> <small>953</small> <small>954</small> <small>955</small> <small>956</small> <small>957</small> <small>958</small> <small>959</small> <small>960</small> <small>961</small> <small>962</small> <small>963</small> <small>964</small> <small>965</small> <small>966</small> <small>967</small> <small>968</small> <small>969</small> <small>970</small> <small>971</small> <small>972</small> <small>973</small> <small>974</small> <small>975</small> <small>976</small> <small>977</small> <small>978</small> <small>979</small> <small>980</small> <small>981</small> <small>982</small> <small>983</small> <small>984</small> <small>985</small> <small>986</small> <small>987</small> <small>988</small> <small>989</small> <small>990</small> <small>991</small> <small>992</small> <small>993</small> <small>994</small> <small>995</small> <small>996</small> <small>997</small> <small>998</small> <small>999</small> <small>1000</small> <small>1001</small> <small>1002</small> <small>1003</small> <small>1004</small> <small>1005</small> <small>1006</small> <small>1007</small> <small>1008</small> <small>1009</small> <small>1010</small> <small>1011</small> <small>1012</small> <small>1013</small> <small>1014</small> <small>1015</small> <small>1016</small> <small>1017</small> <small>1018</small> <small>1019</small> <small>1020</small> <small>1021</small> <small>1022</small> <small>1023</small> <small>1024</small> <small>1025</small> <small>1026</small> <small>1027</small> <small>1028</small> <small>1029</small> <small>1030</small> <small>1031</small> <small>1032</small> <small>1033</small> <small>1034</small> <small>1035</small> <small>1036</small> <small>1037</small> <small>1038</small> <small>1039</small> <small>1040</small> <small>1041</small> <small>1042</small> <small>1043</small> <small>1044</small> <small>1045</small> <small>1046</small> <small>1047</small> <small>1048</small> <small>1049</small> <small>1050</small> <small>1051</small> <small>1052</small> <small>1053</small> <small>1054</small> <small>1055</small> <small>1056</small> <small>1057</small> <small>1058</small> <small>1059</small> <small>1060</small> <small>1061</small> <small>1062</small> <small>1063</small> <small>1064</small> <small>1065</small> <small>1066</small> <small>1067</small> <small>1068</small> <small>1069</small> <small>1070</small> <small>1071</small> <small>1072</small> <small>1073</small> <small>1074</small> <small>1075</small> <small>1076</small> <small>1077</small> <small>1078</small> <small>1079</small> <small>1080</small> <small>1081</small> <small>1082</small> <small>1083</small> <small>1084</small> <small>1</small></p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(35) 金融負債と資本の区分 (IAS32.11, 16A-16D, 15, 18)	IAS第32号にて、金融負債と資本の区分に関する包括的な規定が設けられており、金融商品の契約の実質ならびに金融負債、資本性金融商品の定義に基づき区分しなければならない。	金融負債と資本の区分に関する包括的な規定は存在しない。
(36) 自己の信用リスク (IFRS 9)	金融負債は、純損益を通じて公正価値で測定する金融負債(売買目的負債および公正価値オプション)および償却原価で測定される金融負債に分類される。 公正価値オプションを適用した金融負債について、当該負債の信用リスクの変動に起因する公正価値の変動はその他の包括利益に表示しなければならない。ただし、この処理が純損益における会計上のミスマッチを創出または拡大する場合は、負債の信用リスクの変動の影響を含む全ての利得または損失を純損益に表示しなければならない。 (IFRS 9.4.2.1, 4.2.2, 5.7.7, 5.7.8)	支払手形、買掛金などの金銭債務は、債務額をもって貸借対照表価額とし、社債については社債金額より低いまたは高い価額で発行した場合には償却原価で評価する必要がある。
(37) 組込デリバティブの分離要件 (金融資産が主契約の場合) (IFRS 9)	(IFRS 9.4.3.2) 主契約がIFRS第9号の範囲内の金融資産である場合は、組込デリバティブを分離せず、当該金融商品全体について分類の判定を行う。	複合金融商品に組込まれた組込デリバティブは、次のすべての要件を満たした場合、主契約から区分して時価評価される。 <small>25</small> <small>BA</small> 組込デリバティブのリスクが現物の金融資産または金融負債に及ぶ可能性がある <small>25</small> <small>BA</small> 組込デリバティブと同一条件の独立したデリバティブが、デリバティブの特徴を満たす <small>25</small> <small>BA</small> 当該複合金融商品について、時価の変動による評価差額が当期の損益に反映されない 上記の要件を満たさない場合でも、管理上組込デリバティブを区分して管理している場合には主契約と組込デリバティブを区分して会計処理することができる。
(38) 組込デリバティブの分離要件 (非金融商品が主契約の場合) (IFRS 9)	(IFRS 9.4.3.3) 組込デリバティブは、次のすべての要件を満たす場合、かつ、その場合にのみ、主契約から区分して公正価値評価する。 <small>25</small> <small>BA</small> 組込デリバティブの経済的特徴およびリスクが、主契約の経済的特徴およびリスクに密接に関連していない <small>25</small> <small>BA</small> 組込デリバティブと同一条件の別のデリバティブが、デリバティブの定義を満たす <small>25</small> <small>BA</small> 当該混合金融商品について、公正価値変動が純損益に反映されない	非金融商品が主契約となる組込デリバティブに関する規定は存在しない。

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(39) ヘッジ会計の 手法 (IAS39, IFRS 9)	公正価値ヘッジ(ヘッジ対象の特定の リスクに係る公正価値の変動と、ヘッ ジ手段の公正価値の変動を、ともに損 益として認識・計上する)、キャッ シュ・フロー・ヘッジ(ヘッジ手段の 公正価値変動のうち、有効部分を資本 の部に直接計上する)、および在外営 業活動体に対する純投資のヘッジにつ いて、ヘッジ会計の会計処理が行われ ている。 ラボバンクは、マイクロ・キャッシュ・ フロー・ヘッジ会計についてのみIFRS 第9号を適用している。IFRS第9号は 金利リスクのポートフォリオ・ヘッジ に関するソリューションを提供してい ないため、経営陣は、マクロ公正価値 ヘッジ会計について、引き続きIAS第39 号に基づくヘッジ会計のソリューショ ンを適用している。	原則として、ヘッジ手段に係る損益または評価 差額を、税効果を考慮のうえ、原則、純資産の 部において繰り延べる。 ただし、ヘッジ対象に係る相場変動等を損益に 反映させる時価ヘッジも認められる。
(40) ヘッジ非有効 部分の処理 (IFRS 9)	(IFRS9.6.5.3, 6.5.11(c)) ヘッジの非有効部分は、純損益に認識 する必要がある。 OCIオプションを選択した資本性金融商 品に対する投資を公正価値ヘッジの ヘッジ対象に指定する場合(かつ、そ の場合のみ)、ヘッジの非有効部分は その他の包括利益に表示され、純損益 に振り替えられることはない。	(金融商品実務指針第172項) ヘッジ全体が有効と判定され、ヘッジ会計の要 件が満たされている場合には、非有効部分につ いても繰延処理することができる。 非有効部分を合理的に区分できる場合には、当 期の損益に計上することができる。
(41) 金利スワップ の特例処理	該当する基準はなく、このような処理 は認められない。	(金融商品会計基準第107項) 一定の条件を満たす場合には、金利スワップを 時価評価せず、金利スワップに係る利息を直 接、金融資産・負債に係る利息に加減して処理 することが認められる。
(42) 未払有給休暇 (IAS19.13-18)	累積型については、将来の有給休暇に 対する権利を増加させる勤務に従業員 が提供したときに、有給休暇に係る予 想コストを認識することが求められる。 非累積型については、休暇取得時に認 識する。	該当する基準はない。
(43) 確定給付制度 - 資産計上など (IAS19.8, 64)	確定給付制度において積立超過がある 場合、正味確定給付制度資産として認 識しうる額は、当該積立超過の額また はアセット・シーリングのいずれか低 い金額に制限される。	(退職給付に関する会計基準「以下「退職会計 基準」第13項) 年金資産の額が退職給付債務を超える場合に は、資産として計上する(なお、個別財務諸表 については別個の定めがある(「退職会計基 準」第39(1)項)。

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(44) 確定給付制度 - 数理計算上の差異 (IAS19.8, 63)	確定給付制度負債(または資産)の純額を財政状態計算書に認識しなければならない(そのため、数理計算上の差異の遅延認識は認められない)。その他の包括利益で認識された当該差異の純損益への振替は認められない。	<p>(退職会計基準第15項、第24項、注7、退職給付に関する会計基準の適用指針(以下「退職給付適用指針」第33-40項、第43項)</p> <p>数理計算上の差異は、原則として各期の発生額について、平均残存勤務期間以内の一定の年数で按分した額を每期費用処理する。また、当期に発生した未認識数理計算上の差異は税効果を調整の上、その他の包括利益を通じて純資産の部に計上する(なお、個別財務諸表については別個の定めがある(「退職会計基準」第39(1)項))。</p> <p>その他の包括利益累計額に計上されている未認識数理計算上の差異のうち、当期に費用処理された部分について、その他の包括利益の調整(組替調整)を行う(なお、個別財務諸表については組替調整は行わない(「退職会計基準」第39(2)項))。</p> <p>数理計算上の差異については、未認識数理計算上の差異の残高の一定割合を費用処理する方法によることができる。数理計算上の差異については、当期の発生額を翌期から費用処理する方法を用いることができる。</p> <p>過去勤務費用と数理計算上の差異の費用処理年数は別個に設定することが可能である。</p>
(45) 確定給付年金制度 - 確定給付制度債務の期間配分方法 (IAS19.67, 70)	原則：給付算定式方式 例外：定額方式(後期の年度の勤務が初期の年度より著しく高い水準の給付を生じさせる場合)	<p>(退職会計基準第19項、退職給付適用指針第11項、第12項、第13項)</p> <p>計算方法は、以下の選択適用となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間定額基準 ・給付算定式基準(IAS19号と同様) <p>なお、給付算定式基準に従う給付額が著しく後加重であるときには、当該後加重である部分の給付については、当該期間(退職給付に関する会計基準の適用指針第13項参照)の給付が均等に生じるとみなして、定額で期間帰属させる。</p>
(46) 確定給付年金制度 - 割引率 (IAS19.83)	以下の順序で検討する。 割引率は、退職後給付債務と同一通貨で同様の期日を有する優良社債の(報告期間の末日現在の)市場利回りを参照して決定する。 そのような社債について厚みのある市場が存在しない場合には、報告期間の末日現在における国債の市場利回りを使用しなければならない。	<p>(退職会計基準第20項、注6、退職給付適用指針第24項)</p> <p>安全性の高い債券の利回りを基礎として決定する(検討にあたり順序はない)。 割引率の基礎とする安全性の高い債券の利回りとは、期末における国債、政府機関債および優良社債の利回りをいう。</p>

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(47) 確定給付年金制度 - 期待運用収益率 (IAS19.123)	期待運用収益という概念はない。上記で算定された割引率を確定給付制度負債(資産)の純額に乗ずることで、確定給付制度負債(資産)の純額に係る利息純額を算定する。	(退職会計基準第23項、退職給付適用指針第21項、第25項) 期待運用収益は、期首の年金資産の額(期中に年金資産の重要な変動があった場合には、これを反映させる)に合理的に期待される収益率(長期期待運用収益率)を乗じて計算する。 長期期待運用収益率は、年金資産が退職給付の支払に充てられるまでの時期、保有している年金資産のポートフォリオ、過去の運用実績、運用方針および市場の動向等を考慮して設定する。
(48) 確定給付年金制度 - 過去勤務費用 (IAS19.103)	制度が改訂または縮小された時と、会社に関連するリストラ費用や解雇給付を認識した時のいずれか早い時期に過去勤務費用を純損益として認識する。	(退職会計基準第15項、第25項、注9、注10、退職給付適用指針 第33項、第41項、第42項、第43項) 過去勤務費用は、原則として各期の発生額について、平均残存勤務期間以内の一定の年数で按分した額を每期費用処理する。また、当期に発生した未認識過去勤務費用は税効果を調整の上、その他の包括利益を通じて純資産の部に計上する(なお、個別財務諸表については別個の定めがある(「退職会計基準」第39(1)項)。その他の包括利益累計額に計上されている未認識過去勤務費用のうち、当期に費用処理された部分について、その他包括利益の調整(組替調整)を行う(なお、個別財務諸表については組替調整は行わない(「退職会計基準」第39(2)項))。 過去勤務費用については、未認識過去勤務費用の残高の一定割合を費用処理する方法によることができる。この場合の一定割合は、過去勤務費用の発生額が平均残存勤務期間以内に概ね費用処理される割合としなければならない。数理計算上の差異については、当期の発生額を翌期から費用処理することができるが、過去勤務費用については同様の処理を認める規定が存在しない。 退職従業員に係る過去勤務費用は、他の過去勤務費用と区分して発生時に全額を費用処理することができる。 過去勤務費用と数理計算上の差異の費用処理年数は別個に設定することが可能である。

項目	国際財務報告基準(IFRS)	日本基準 (一般に公正妥当と認められる会計原則)
(49)保険契約 (IFRS17)	IFRS第17号「保険契約」は、当該基準の範囲に含まれる保険契約の認識、測定、表示及び開示に関する原則を定めている。	日本の会計基準では保険契約の会計処理を取り扱う会計基準はなく、金融商品に該当すれば金融商品会計に関する実務指針により会計処理することになる。一方保険会社には「保険業法で定められた会計」としての保険会計が適用される。

第7【外国為替相場の推移】

日本円とユーロの交換に関する為替相場は、国内において発行される2紙以上の日刊新聞紙に、当上半期中毎日掲載されているため、本書におけるその記載を省略する。

第8【提出会社の参考情報】

当社は、当事業年度開始日から本書提出日までの間に下記の書類を関東財務局長に提出した。

書類名	提出日
有価証券報告書	2024年5月31日
発行登録書（売出）	2024年6月10日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

第1【保証会社情報】

該当なし

第2【保証会社以外の会社の情報】

該当なし

第3【指数等の情報】

該当なし